

I 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の概要

1 実施概要

- (1) 実施日 令和7年4月17日（木）
- (2) 対象学年 小学校第6学年・中学校第3学年
- (3) 実施教科等

ア 教科に関する調査

- ・小学校第6学年：国語、算数、理科
- ・中学校第3学年：国語、数学、理科

注：「主として『知識・技能』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」とを一体的に問う問題が出題されている。

注：中学校理科はC B Tで実施

イ 質問調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する児童生徒に対する調査
- ・学校における指導方法に関する取組等の学校に対する調査

注：1人1台端末等を用いたオンライン方式により実施

2 平均正答率の状況

	国語			算数・数学			理科		
	京都府 (京都市 含む)	京都府 (京都市 除く)	全国	京都府 (京都市 含む)	京都府 (京都市 除く)	全国	京都府 (京都市 含む)	京都府 (京都市 除く)	全国
小学校	69	67	66.8	60	59	58.0	60	58	57.1
中学校	55	54	54.3	49	48	48.3	500	491	503

注：都道府県別の平均正答率については、整数値のみ公表することとされている。

注：中学校理科の結果はI R Tスコア・バンドで示されている。

3 結果の概要

○ 教科に関する調査

小学校は全ての教科で平均正答率が全国平均以上、中学校はすべての教科で平均正答率が全国平均と同程度であり、下位層(C, D層)の割合が小学校は全国よりも低く、中学校は全国と同程度である。

○ 質問調査

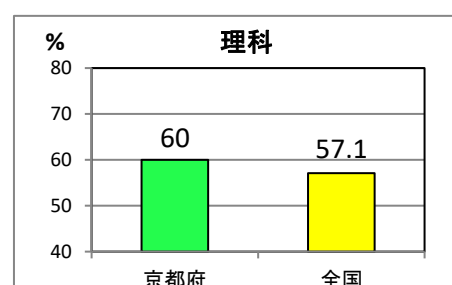
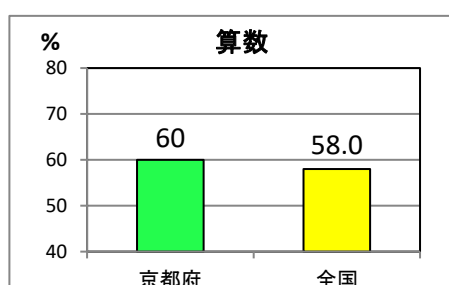
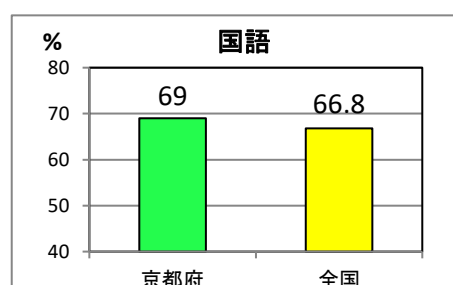
- ・京都府においては、授業におけるI C T機器の使用頻度が全国に比べて高い。
- ・京都府においては、全国と比較して就学援助率が高い割合である学校が多い。

Ⅱ 教科に関する調査結果の概要

1 小学校の概要

表1 小学校 平均正答率(京都府(京都市除く)・全国とも公立学校)

教科等	国 語		算 数		理科	
	京都府(市除く)	全国	京都府(市除く)	全国	京都府(市除く)	全国
令和7年度	69(67)	66.8	60(59)	58.0	60(58)	57.1
令和6年度	70	67.7	67	63.4		
令和5年度	70	67.2	65	62.5		
令和4年度	68	65.6	65	63.2	64	63.3
令和3年度	68	64.7	73	70.2		
31年度	66	63.8	68	66.6		
教科等	国 語		算 数		理 科	
	A「知識」		B「活用」			
	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国
30年度	73	70.7	56	54.7	65	63.5
29年度	76	74.8	59	57.5	80	78.6
28年度	74.2	72.9	59.4	57.8	79.9	77.6
27年度	72.1	70.0	67.5	65.4	77.6	75.2



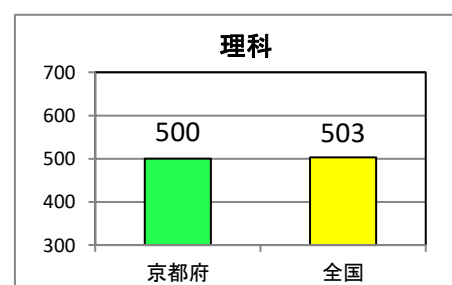
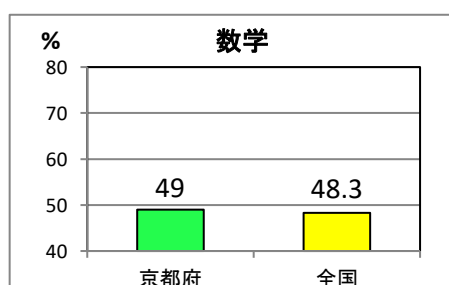
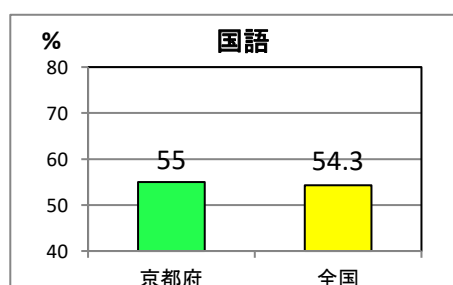
○ 小学校の国語、算数、理科について、全国平均以上です。

2 中学校の概要

表2 中学校 平均正答率(京都府(京都市除く)・全国とも公立学校)

教科等	国 語				数学				理科		英語	
	京都府(市除く)		全国		京都府(市除く)		全国		京都府(市除く)	全国	京都府(市除く)	全国
令和7年度	55(54)		54.3		49(48)		48.3		500 [*] (491 [*])	503 [*]		
令和6年度	59		58.1		53		52.5					
令和5年度	71		69.8		52		51.0				47	45.6
令和4年度	69		69.0		52		51.4		49	49.3		
令和3年度	65		64.6		57		57.2					
31年度	73		72.8		61		59.8				56	56.0
教科等	国 語				数学				理 科		英語	
	A「知識」		B「活用」		A「知識」		B「活用」		理 科		英語	
	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国
30年度	77	76.1	62	61.2	67	66.1	48	46.9	66	66.1		
29年度	78	77.4	73	72.2	66	64.6	49	48.1				
28年度	75.8	75.6	67.2	66.5	63.3	62.2	45.0	44.1				
27年度	76.7	75.8	66.5	65.8	65.3	64.4	42.5	41.6	52.6	53.0		

* 令和7年度の中学校理科はCBTでの実施となり、結果はIRTスコア・バンドで示されている。



○ 中学校の国語、数学、理科について、全国平均と同等です。

注1: 都道府県別の平均正答率については、整数値のみ公表することとされている。

注2: 調査は平成19年度から開始されたが、10年分のみ表示している。

注3: 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に係る学校教育への影響等を考慮し、実施されていない。

3 正答数の分布状況(京都市含む)

(1) 小学校

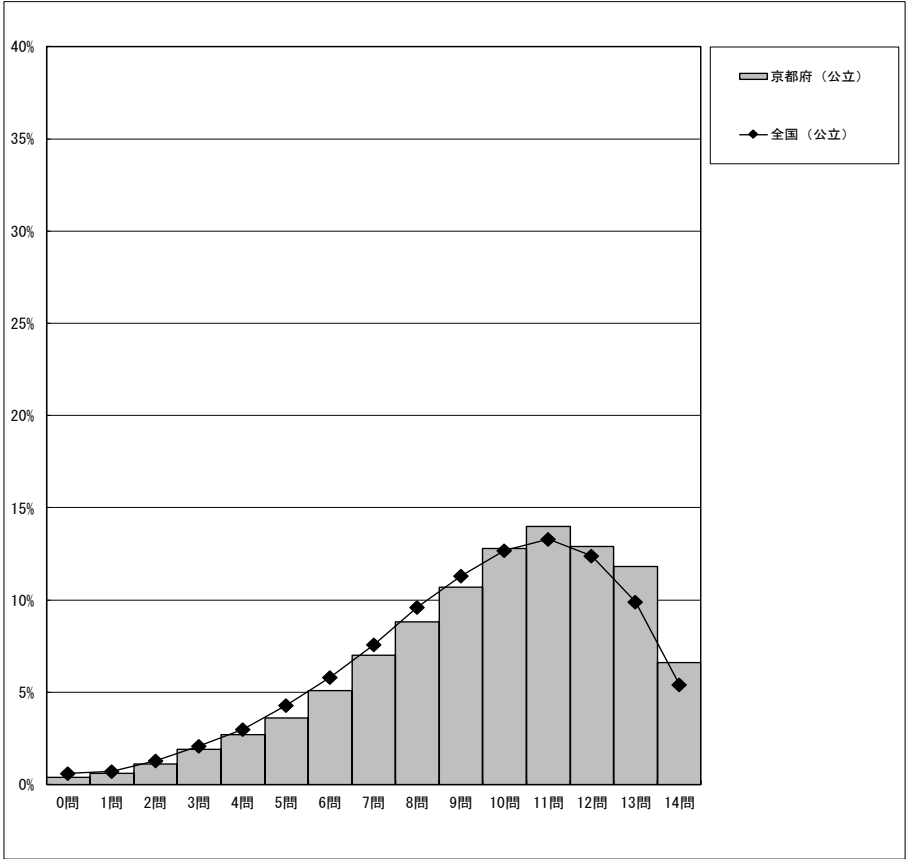
ア 国語

注:都道府県別の平均正答率については、整数値のみ公表することとされている。

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
京都府(公立)	17,844	9.7 / 14	69	10.0	3.0
全国(公立)	936,137	9.4 / 14	66.8	10.0	3.0

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)

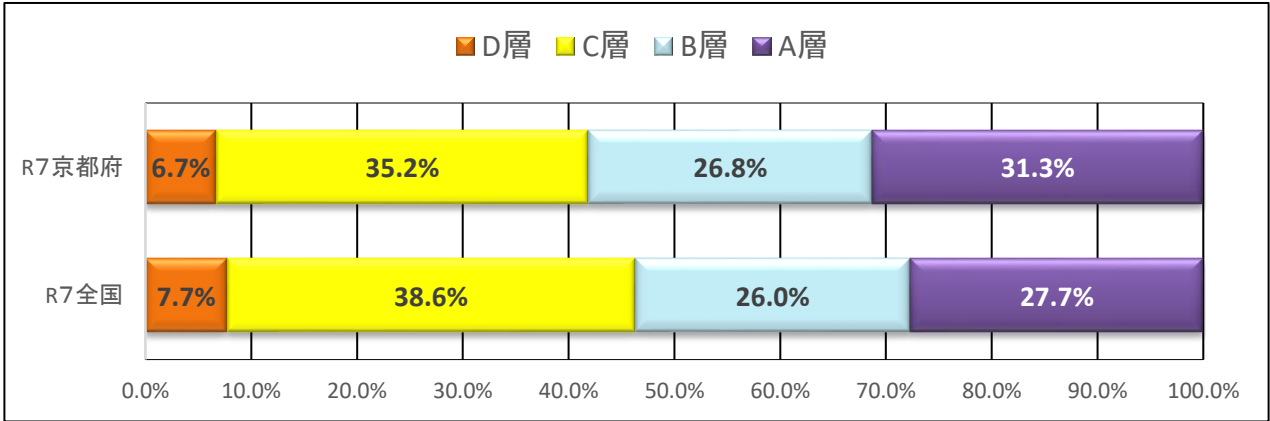


正答数集計値			
正答数	児童数	割合(%)	
	京都府(公立)	京都府(公立)	全国(公立)
14問	1,183	6.6	5.4
13問	2,114	11.8	9.9
△ 12問	2,299	12.9	12.4
◇ 11問	2,506	14.0	13.3
◇ 10問	2,292	12.8	12.7
9問	1,902	10.7	11.3
▽ 8問	1,574	8.8	9.6
7問	1,244	7.0	7.6
6問	913	5.1	5.8
5問	635	3.6	4.3
4問	483	2.7	3.0
3問	331	1.9	2.1
2問	199	1.1	1.3
1問	99	0.6	0.7
0問	70	0.4	0.6

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	京都府(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	8.0問	7.0問

◇【小学校国語】A～D層の分布状況



○上の正答数分布状況グラフは、児童をその正答数によりA層からD層までの4群に分け、それぞれの人数の比率を示したものです。

○各教科・各年度の平均正答数以上の児童をA層（上位）、B層（中上位）、平均正答数未満の児童をC層（中下位）、D層（下位）にそれぞれ2分割して表示しています。

○今年度の小学校国語の出題数は14問あり、全国平均正答数が9.4問です。
したがって、0～4問がD層、5～9問がC層、10～11問がB層、12～14問がA層となります。

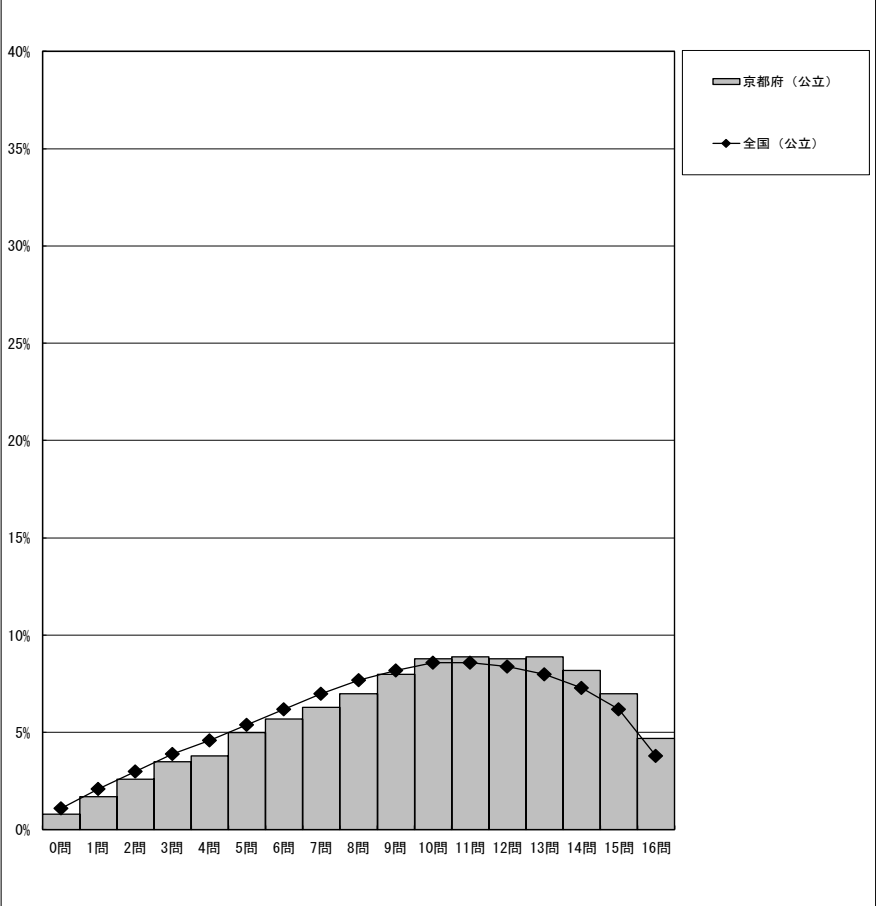
イ 算数

注：都道府県別の平均正答率については、整数値のみ公表することとされている。

・以下の集計値／グラフは、４月１７日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府（公立）	17,859	9.7 / 16	60	10.0	4.0
全国（公立）	936,399	9.3 / 16	58.0	10.0	4.0

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）

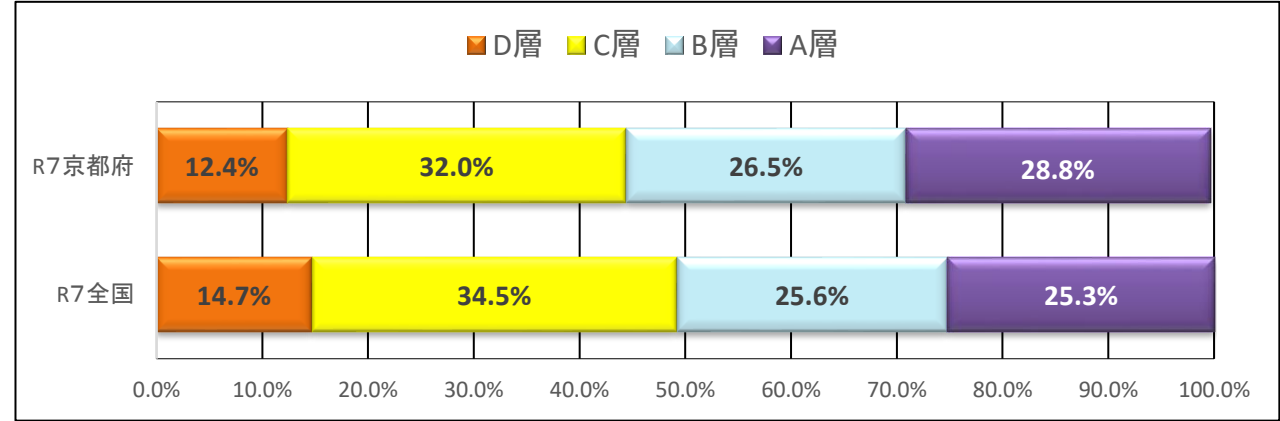


正答数集計値			
正答数	児童数	割合 (%)	
	京都府 (公立)	京都府 (公立)	全国 (公立)
16問	844	4.7	3.8
15問	1,255	7.0	6.2
14問	1,460	8.2	7.3
△ 13問	1,595	8.9	8.0
12問	1,574	8.8	8.4
11問	1,589	8.9	8.6
◇ 10問	1,569	8.8	8.6
9問	1,431	8.0	8.2
8問	1,255	7.0	7.7
▽ 7問	1,133	6.3	7.0
6問	1,013	5.7	6.2
5問	893	5.0	5.4
4問	685	3.8	4.6
3問	630	3.5	3.9
2問	473	2.6	3.0
1問	312	1.7	2.1
0問	148	0.8	1.1

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	京都府 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	7.0問	6.0問

◇【小学校算数】A～D層の分布状況



○上の正答数分布状況グラフは、児童をその正答数によりA層からD層までの4群に分け、それぞれの人数の比率を示したものです。

○各教科・各年度の平均正答数以上の児童をA層（上位）、B層（中上位）、平均正答数未満の児童をC層（中下位）、D層（下位）にそれぞれ2分割して表示しています。

○今年度の小学校算数の出題数は16問あり、全国平均正答数が9.3問です。
したがって、0～4問がD層、5～9問がC層、10～12がB層、13～16問がA層となります。

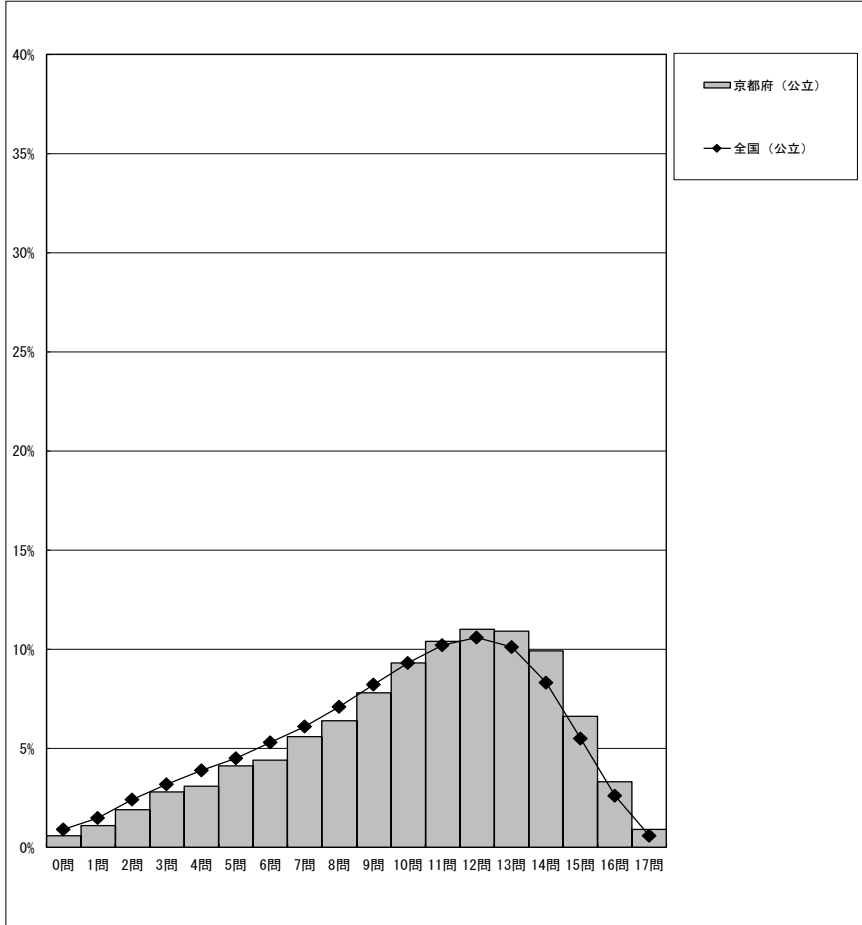
ウ 理科

注:都道府県別の平均正答率については、整数値のみ公表することとされている。

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府（公立）	17,885	10.2 / 17	60	11.0	3.7
全国（公立）	936,576	9.7 / 17	57.1	10.0	3.8

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）

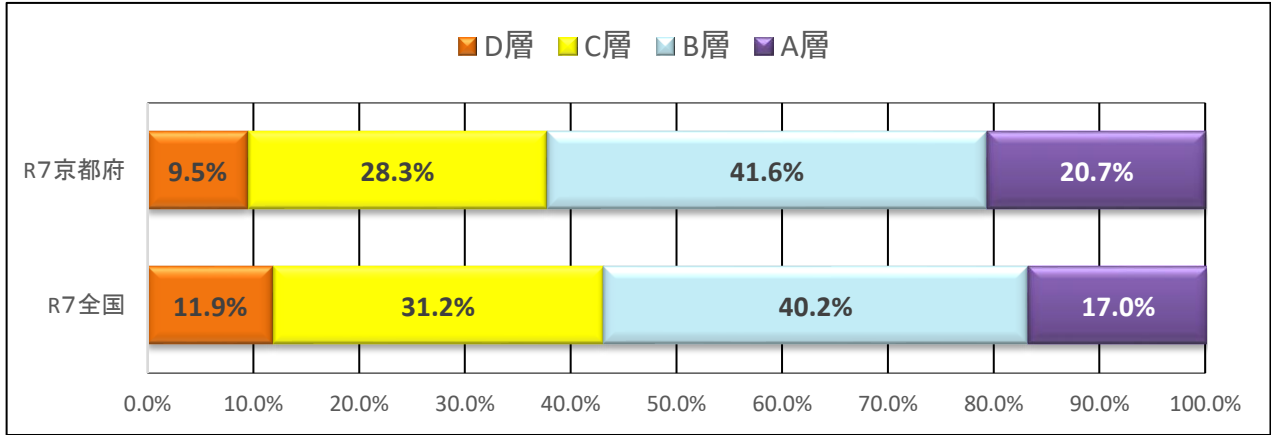


正答数集計値			
正答数	児童数	割合 (%)	
	京都府 (公立)	京都府 (公立)	全国 (公立)
17問	157	0.9	0.6
16問	585	3.3	2.6
15問	1,189	6.6	5.5
14問	1,767	9.9	8.3
△ 13問	1,946	10.9	10.1
◇ 12問	1,970	11.0	10.6
◇ 11問	1,857	10.4	10.2
10問	1,671	9.3	9.3
9問	1,400	7.8	8.2
▽ 8問	1,145	6.4	7.1
7問	994	5.6	6.1
6問	782	4.4	5.3
5問	725	4.1	4.5
4問	563	3.1	3.9
3問	498	2.8	3.2
2問	334	1.9	2.4
1問	202	1.1	1.5
0問	100	0.6	0.9

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	京都府 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	11.0問	10.0問
▽ 第1四分位	8.0問	7.0問

◇【小学校理科】A～D層の分布状況



○上の正答数分布状況グラフは、生徒をその正答数によりA層からD層までの4群に分け、それぞれの人数の比率を示したものです。

○各教科・各年度の平均正答数以上の生徒をA層（上位）、B層（中上位）、平均正答数未満の生徒をC層（中下位）、D層（下位）にそれぞれ2分割して表示しています。

○今年度の小学校理科の出題数は17問あり、全国の平均正答数が9.7問です。
したがって、0～4問がD層、5～9がC層、10～13問がB層、14～17問がA層となります。

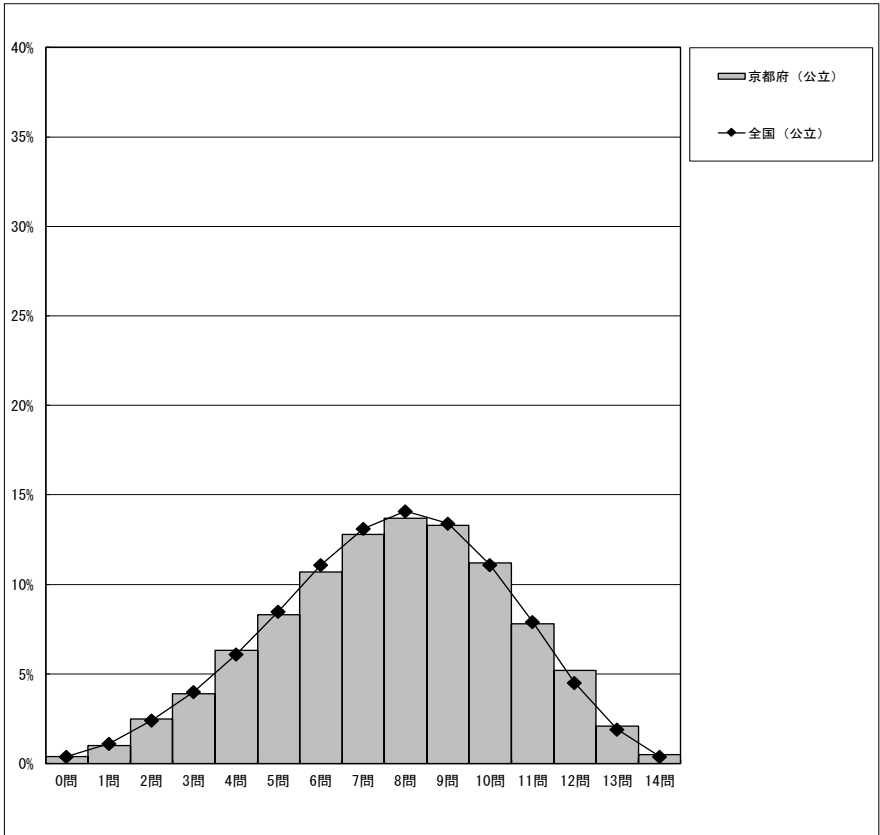
(2) 中学校
ア 国語

注：都道府県別の平均正答率については、整数値のみ公表することとされている。

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
京都府（公立）	16,523	7.6 / 14	55	8.0	2.8
全国（公立）	870,560	7.6 / 14	54.3	8.0	2.7

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）

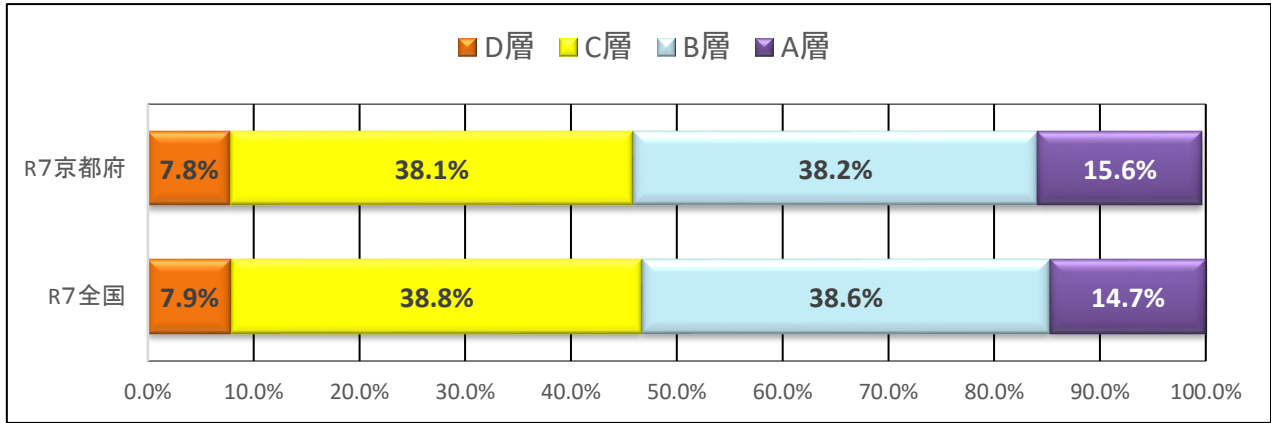


正答数集計値			
正答数	生徒数	割合 (%)	
	京都府（公立）	京都府（公立）	全国（公立）
14問	84	0.5	0.4
13問	352	2.1	1.9
12問	866	5.2	4.5
11問	1,296	7.8	7.9
△ 10問	1,855	11.2	11.1
◇ 9問	2,205	13.3	13.4
◇ 8問	2,270	13.7	14.1
◇ 7問	2,117	12.8	13.1
▽ 6問	1,762	10.7	11.1
5問	1,376	8.3	8.5
4問	1,040	6.3	6.1
3問	645	3.9	4.0
2問	419	2.5	2.4
1問	173	1.0	1.1
0問	63	0.4	0.4

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	京都府（公立）	全国（公立）
△ 第3四分位	10.0問	10.0問
◇ 第2四分位	8.0問	8.0問
▽ 第1四分位	6.0問	6.0問

◇【中学校国語】A～D層の分布状況



○上の正答数分布状況グラフは、生徒をその正答数によりA層からD層までの4群に分け、それぞれの人数の比率を示したものです。

○各教科・各年度の平均正答数以上の生徒をA層（上位）、B層（中上位）、平均正答数未満の生徒をC層（中下位）、D層（下位）にそれぞれ2分割して表示しています。

○今年度の中学校国語の出題数は14問あり、全国平均正答数が7.6問です。
したがって、0～3問がD層、4～7問がC層、8～10問がB層、11～14問がA層となります。

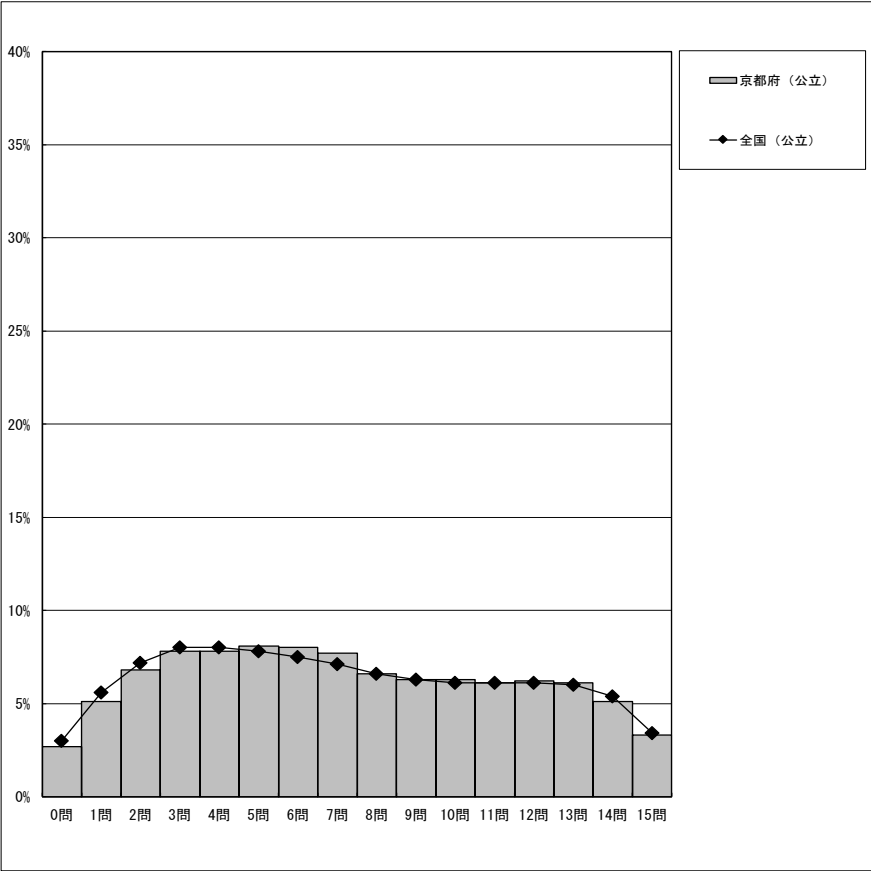
イ 数学

注：都道府県別の平均正答率については、整数値のみ公表することとされている。

・以下の集計値／グラフは、４月１７日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
京都府（公立）	16,557	7.3 / 15	49	7.0	4.2
全国（公立）	871,097	7.2 / 15	48.3	7.0	4.2

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）

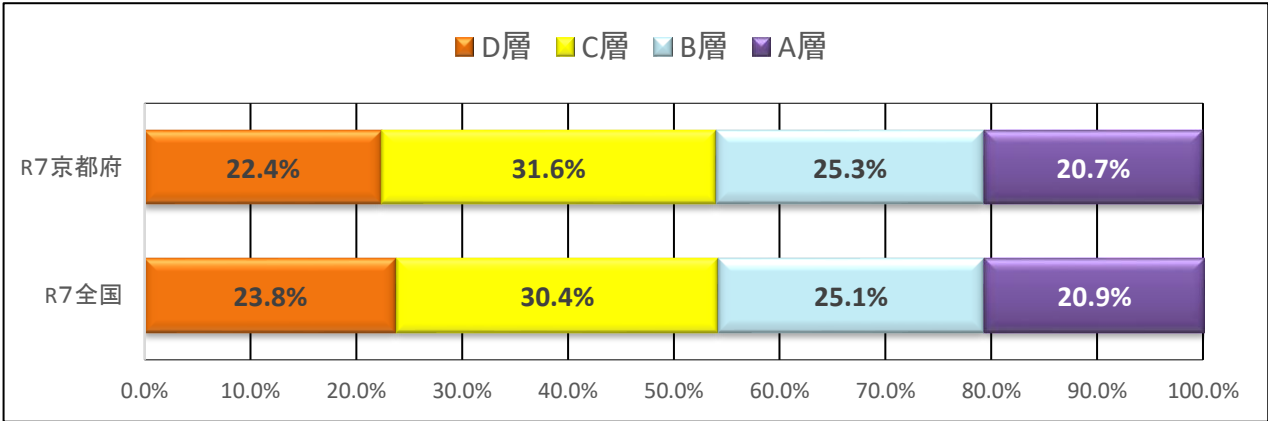


正答数集計値			
正答数	生徒数	割合(%)	
	京都府 (公立)	京都府 (公立)	全国 (公立)
15問	540	3.3	3.4
14問	845	5.1	5.4
13問	1,011	6.1	6.0
12問	1,034	6.2	6.1
△ 11問	1,016	6.1	6.1
◇ 10問	1,049	6.3	6.1
▽ 9問	1,049	6.3	6.3
8問	1,091	6.6	6.6
◇ 7問	1,269	7.7	7.1
6問	1,326	8.0	7.5
5問	1,336	8.1	7.8
▽ 4問	1,285	7.8	8.0
3問	1,291	7.8	8.0
2問	1,126	6.8	7.2
1問	847	5.1	5.6
0問	442	2.7	3.0

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	京都府 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	7.0問	7.0問
▽ 第1四分位	4.0問	4.0問

◇【中学校数学】A～D層の分布状況



○上の正答数分布状況グラフは、生徒をその正答数によりA層からD層までの4群に分け、それぞれの人数の比率を示したものです。

○各教科・各年度の平均正答数以上の生徒をA層（上位）、B層（中上位）、平均正答数未満の生徒をC層（中下位）、D層（下位）にそれぞれ2分割して表示しています。

○今年度の中学校数学の出題数は15問あり、全国の平均正答数が7.2問です。
したがって、0～3問がD層、4～7問がC層、8～11問がB層、12～15問がA層となります。

ウ 理科
今年度の中学校理科はCBTでの実施となり、調査結果はIRTスコア・バンドで示されています。

○IRT(Item Response Theory: 項目反応理論)
児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを 区別して分析し、児童生徒の学カスコアを推定する統計理論。

- 問題構成について
- ・生徒1人あたり、公開問題10問と非公開問題16問を出題しています。
 - ・公開問題には全日程に共通する問題と実施日別の問題があります。
 - ・非公開問題は幅広い内容・難易度等から出題され、生徒ごとに異なる問題を解いています。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/1417152_00015.htm)

【1】 平均正答数集計値

	生徒数	平均正答数	標準偏差
京都府（公立）	16,428	2.8 / 6	1.4
全国（公立）	864,634	2.9 / 6	1.4

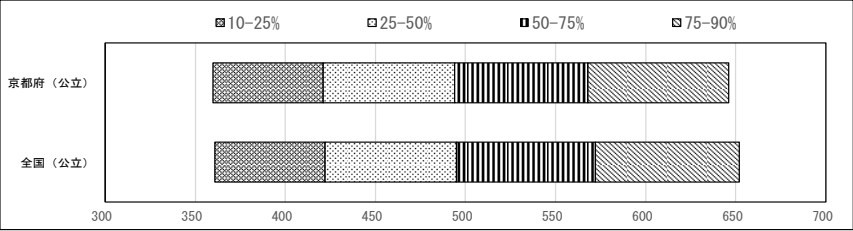
【2】～【9】 平均正答数集計値

	【2】、【9】	【5】、【8】	【3】、【6】	【4】、【7】
京都府（公立）	1.9 / 4	1.9 / 4	2.3 / 4	2.3 / 4
全国（公立）	2.0 / 4	1.9 / 4	2.3 / 4	2.3 / 4

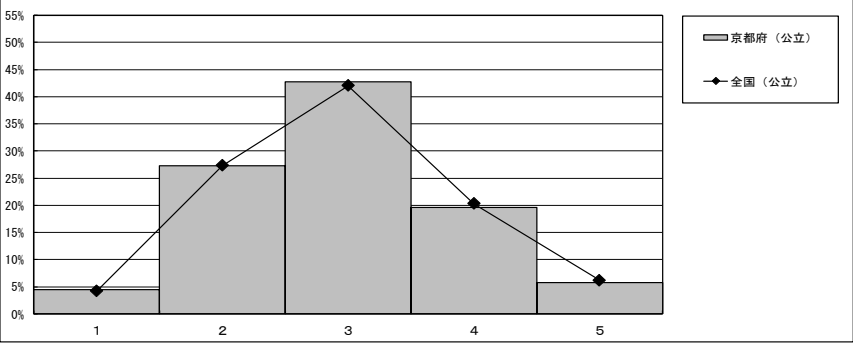
IRTスコア集計値

	平均IRTスコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
京都府（公立）	500	123.2	360	421	494	568	646
全国（公立）	503	124.0	361	422	495	572	652

IRTスコア分布グラフ（パーセンタイル値：10%、25%、50%、75%、90%）



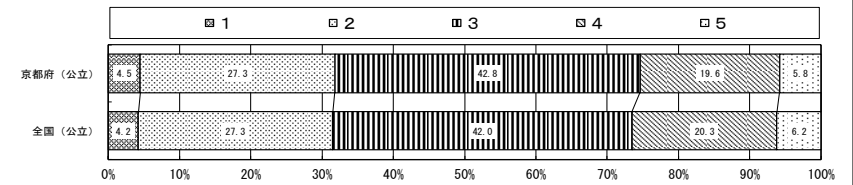
IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）



IRTバンド集計値

IRTバンド	生徒数	割合（%）	
	京都府（公立）	京都府（公立）	全国（公立）
5	953	5.8	6.2
4	3,221	19.6	20.3
3	7,030	42.8	42.0
2	4,477	27.3	27.3
1	747	4.5	4.2

IRTバンド分布比較



○IRTスコア

IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの

○IRTスコア・バンド

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったもの（3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。）

Ⅲ 教科に関する特徴的な調査問題(京都市除く)

- 全国と比較して、いずれの教科もA層（上位）、D層（下位）の割合はほぼ同等であるが、中学校理科ではIRTバンドの上位（4, 5）の割合が少ない。
- 領域や観点によって、全国平均を下回っているものもあるが、全国の傾向と大きな違いはない。

1 小学校国語

- ・「話すこと」「聞くこと」の領域に課題が見られる。特に目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること（府正答率52.7%）に課題がある。

⇒「対話的な学び」や「協働的な学び」を充実させていく中で、意図や目的をもって聞いたり話したりする活動を設定していくことが重要である。話の意図や文脈を踏まえた判断を求める問いに取り組み、対話的な活動やメタ認知的な振り返りを通じて、選択に至った根拠を言語化する力を育てていくことが重要である。

- 1 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。
- 2 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、相手が答えやすい内容を選べるようにしている。
- 3 複数の質問を関連づけて聞くことで、相手が答えやすい内容を選べるようにしている。
- 4 複数の質問を関連づけて聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。

【話し合いの様子】

小森さん 質問することを整理するために、話し合ったことを記録するね。私は、運転士さんがどんなことを大切にしているかを知りたいな。きっと、乗客の安全を大切にしていると思うな。

清川さん ぼくがよく乗るバスはいつも時間どおりに来るよ。時間を守ることも大切にしていると思うな。

町田さん 安全を考えながら時間を守ることは、大変そうだな。

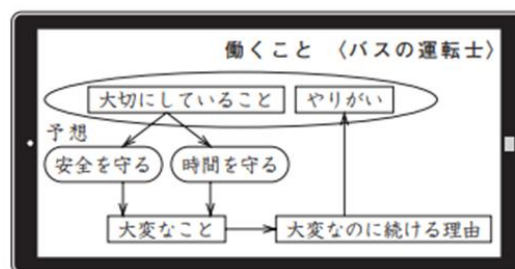
小森さん 確かに、大変そうだね。「仕事で大切にしていること」で話してくれたことをきつかけにして、「仕事で大変なこと」を聞くことができるかもしれないよ。

清川さん バスの運転士は、楽しそうだなと思っていたけど、大変なこともありそうだね。大変なことがあっても仕事を続けている理由も聞きたいな。

町田さん きっと仕事にやりがいがあるからだよ。

清川さん ぼくもそう思うな。大切にしていることとやりがいについては、働くことについて考えるためにもぜひ聞きたいね。

小森さん うん、そうしよう。ここまでの話し合いの記録をこんなふうにまとめたよ。この進め方でいいかな。



1 小森さんの学級では、働くことについて考えるために、自分の興味のある仕事をしている人にインタビューをすることになりました。バスの運転士に興味のある小森さんたちは、インタビューで質問することを話し合っています。次の【話し合いの様子】と【話し合いの記録】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子】

【話し合いの記録】

2 小学校算数

- ・異分母の分数の計算をすることはできている(府正答率87.1%)が、数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数のいくつ分として捉えること(府正答率32.7%)に課題がある。特に、1より小さい数については正しく捉えることができているが、1より大きい数については誤って捉えている児童が一定数いる。

⇒0から1までが何等分されているかに着目して、単位分数を捉えることができるようにすることが大切である。その上で、他の目盛りが表す分数を単位分数の幾つ分かで考えることができるようにする指導が大切である。

3 (3) 次の数直線のア、イの目もりが表す数を分数で書きましょう。



ア $\frac{1}{3}$	イ $\frac{5}{6}$	4.1% (全国3.9%)
ア $\frac{1}{3}$	イ $\frac{2}{3}$	4.2% (全国4.2%)

(4) $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ を計算しましょう。

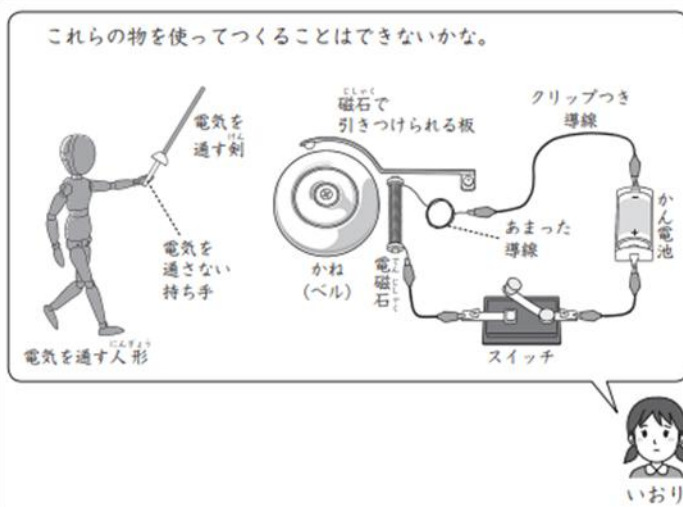
$\frac{2}{5}$ 1.4% (全国2.5%)

3 小学校理科

- ・電気が通る回路のつくり方について理解し、表現することに課題がある。電気の通り道を考え、電気を通さない部分が回路に含まれることによって回路の一部が切れて電気が通らないということを理解できていない、もしくはそのことを表現すること（府正答率41.9%）に課題がある。

⇒電気が通る正解の回路を作成するだけでなく、失敗した回路について、なぜ、つながらないのか振り返ったり、修正したりする活動が大切である。

2 (2)

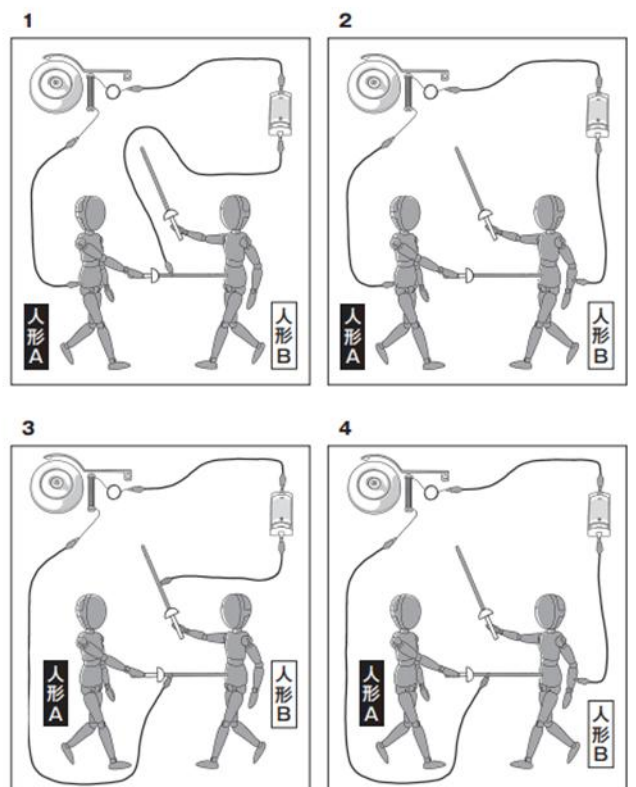


いおりさんは、かね（ベル）が鳴るしくみについて考えています。

スイッチを入れると、
かね（ベル）が鳴るしくみ
になっているね。

スイッチを人形に置きかえ、
人形に剣を当てたときだけ、
かね（ベル）が鳴るようにしたい。

(2)「人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね（ベル）が鳴る」のは、
どのような回路でしょうか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、
その番号を書きましょう。



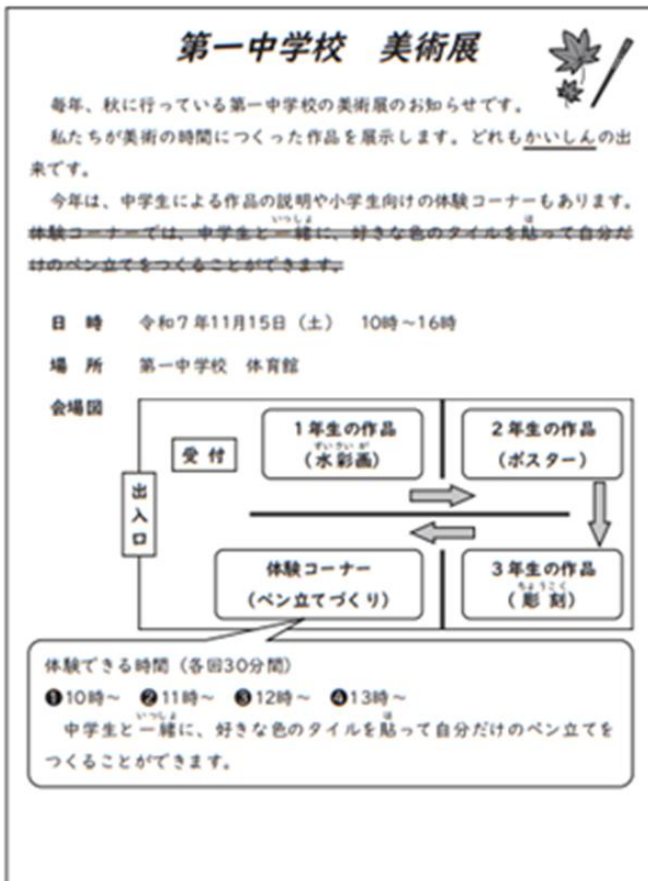
4 中学校国語

- ・「書くこと」の領域に課題が見られる。特に《構成の検討》（1三 61.9%）に課題がある。また、「話すこと・聞くこと」の領域《表現、共有》（2四 22.4%）にも課題が見られる。

⇒文章の構成を考えたり、目的や意図に応じて書いたり、考えが伝わるように書き方を工夫したりといった事柄に課題が見られるため、「書くこと」や「話すこと」といった表現活動について、指導事項を明確に意識した指導を継続しながらその質を高めていく必要がある。また、日常生活の中で文章を書く機会を充実させることでさらに記述式問題の無解答率が下がり、資質・能力が高まっていくことは自明であるため、国語以外の場面も含めてそれらの機会を増やしていくことが大切である。

1 三

【ちらし】（更新版①）



三 中井さんは、【ちらし】（更新版①）のように、＝線の部分を削除して  の中に書き加えました。その意図を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 具体例を示したあとに要点を示すことで、中心となる情報に対する読み手の理解を深めようとした。
- 2 伝えるべき事柄に見出しを付けることで、読み手に速やかに情報を伝えようとした。
- 3 情報を示す位置を整理することで、関連する情報を読み手がまとめて得られるようにした。
- 4 時間の流れに沿って情報を示すことで、読み手が必要とする情報を見付けやすくした。

5 中学校数学

- ・数学の用語の理解に課題が見られる。1 から 9 までの自然数の中から素数を選ぶ問題（府正答率26.9%）では、1 を素数に含んでいる誤答の割合が55.8%であった。また、三角形の1つの外角の大きさを求める問題（府正答率56.6%）では、1つの内角の外側の角を外角と捉えている誤答の割合が30.3%であった。

⇒「1は素数に含まれる」と考える生徒や「頂点Aにおける外角を、 360° から頂点Aにおける内角を引いた角である」と捉えている生徒が多いことから、これらの用語を活用するその後の学習において、用語の意味を再確認する場面を設定することが大切である。

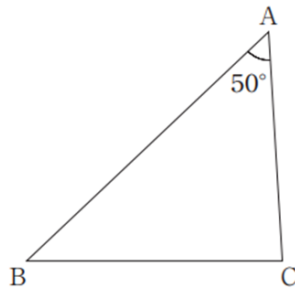
- 1** 下の1から9までの数の中から素数をすべて選び、選んだ数のマーク欄を黒く塗りつぶしなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

類型4～7（1を含む）
を選択した生徒の割合

55.8%（全国 50.3%）

- 3** 下の図の△ABCで、頂点Aにおける外角の大きさを求めなさい。



類型2（ 310° ）を
選択した生徒の割合

30.3%（全国 27.4%）

6 中学校理科

- ・生徒1人当たり公開問題10問と非公開問題16問を解く構成となっている。公開問題には全日程に共通する問題と実施日別の問題がある。

下の1～9は大問、(1)～(6)は各設問に相当

公開問題 (合計22問)		非公開問題	
全日程に共通する問題 (6問)	実施日により異なる問題 (16問)		
1 (1)～(6) ⑥問	2 (1) (2) 9 (1) (2) ④問	16問	
1 (1)～(6) ⑥問	5 (1) (2) 8 (1) (2) ④問	16問	
1 (1)～(6) ⑥問	3 (1) (2) 6 (1) (2) ④問	16問	
1 (1)～(6) ⑥問	4 (1) (2) 7 (1) (2) ④問	16問	

生徒一人が解く問題数 26問

- ・全日程共通の問題の中で課題が見られた問題は、大問1(4)である。観察した水の中の生物が呼吸を行う生物か否かについて、これまで理科で学習したことを活用して、生命を維持する働きと関連付けて考えること(府正答率30.7%)に課題がある。解答類型1の反応率は58.6%で、動く生物が呼吸を行い、動かない生物が呼吸を行っていないと捉えていると考えられる。

⇒観察した生物の共通点と、生命を維持する呼吸の知識とを関連付けて、生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付けることが大切である。

1 (4) 地層からしみ出した水について調べる

図のように地層からしみ出した水がたまっていたので、この水を適切な実験器具で観察しましょう。

図 地層からしみ出した水を採取している様子

下のように4種類の生物が観察できました。

観察した様子を見ましょう。

生物1 生物2 生物3 生物4

生物2、生物4の動画 出典 茨城県立科学センター

これまでの学習内容を活用して呼吸を行う生物はどれか、考えてみましょう。

呼吸を行う生物は……。

(4)

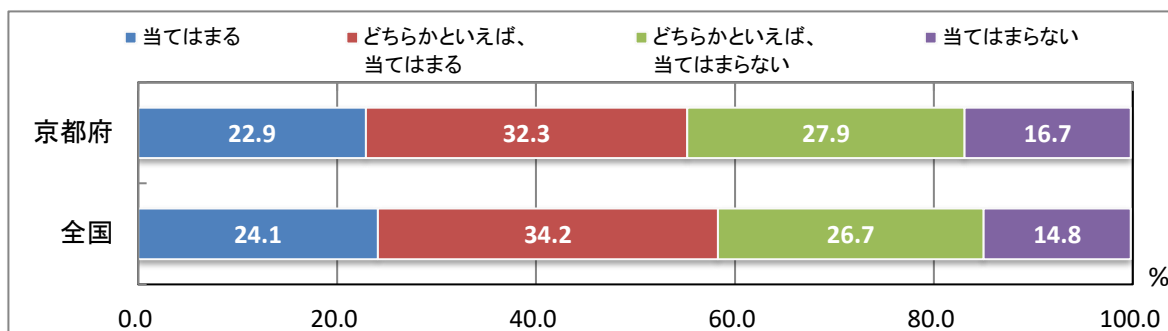
呼吸を行う生物をすべて選びなさい。なお、生物1から4のすべてを選んでもかまいません。

Ⅳ 質問調査結果の概要(京都市含む)

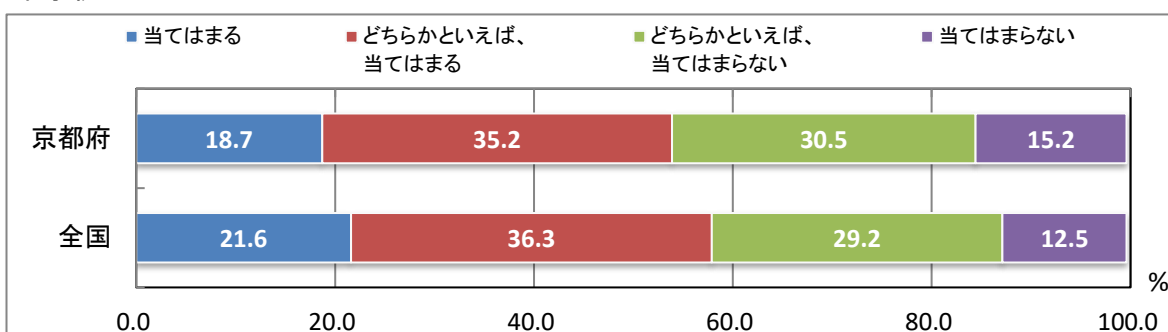
＜児童生徒に対する調査＞

Q 国語の勉強は好きですか

小学校

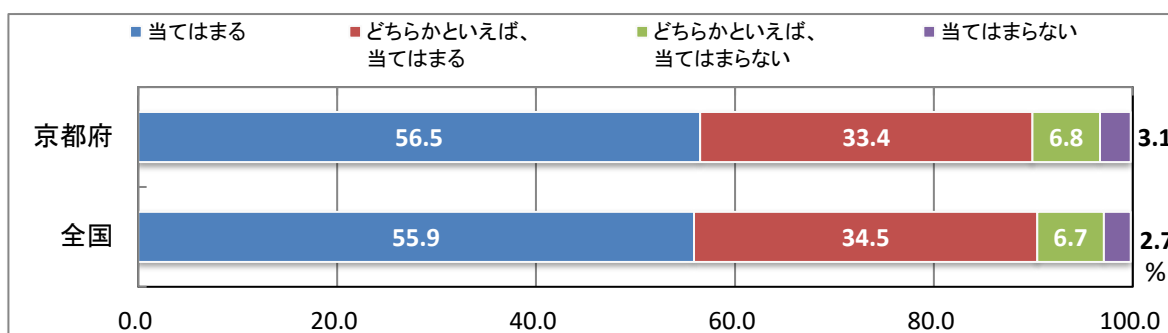


中学校

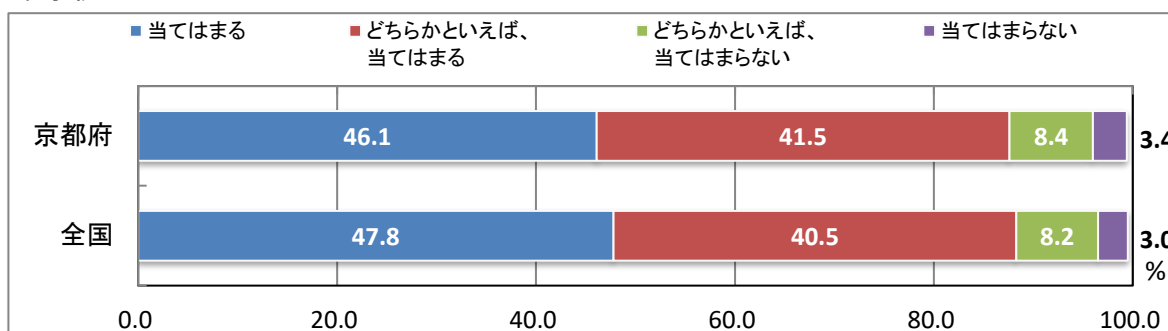


Q 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

小学校

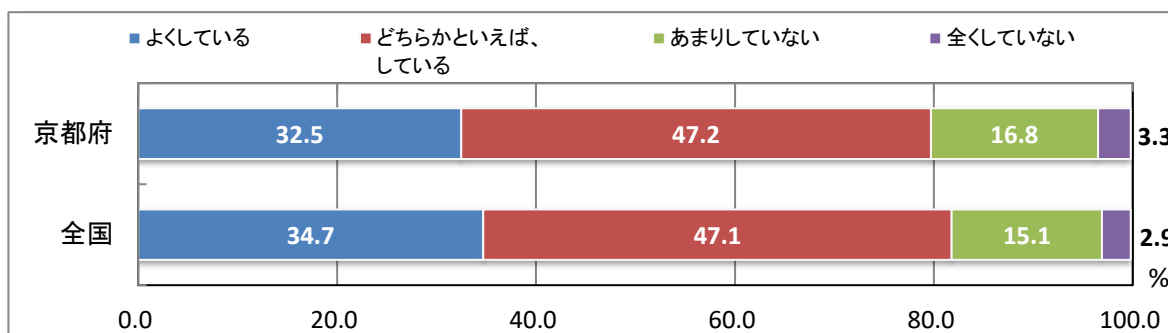


中学校



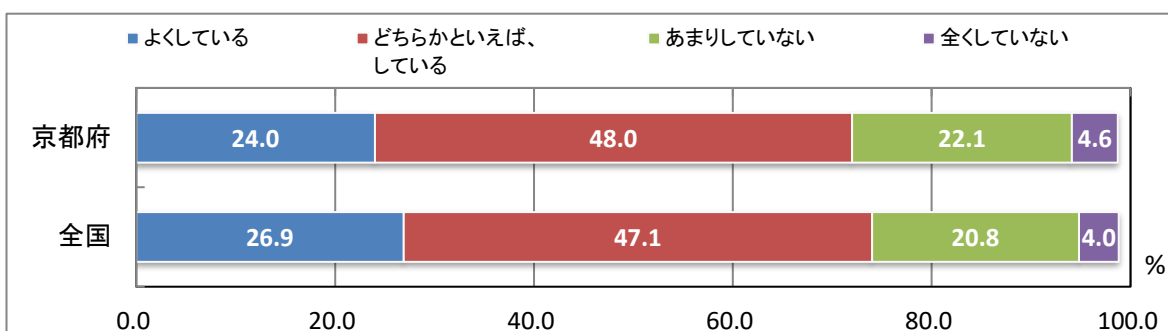
Q 国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか

小学校



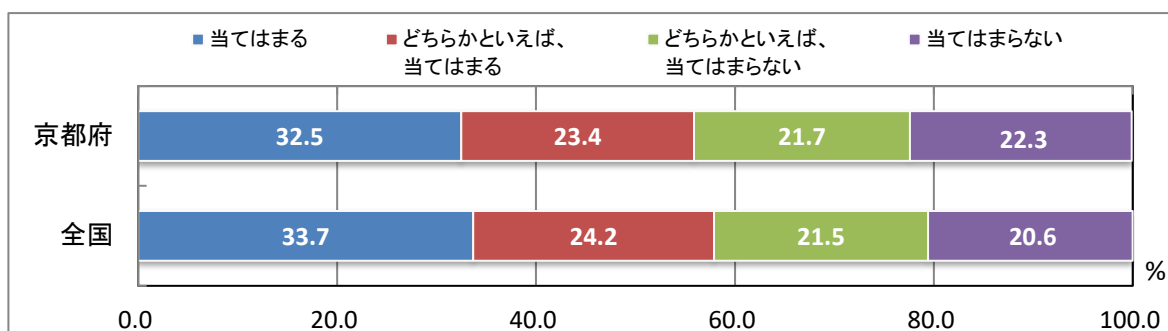
Q 国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか

中学校

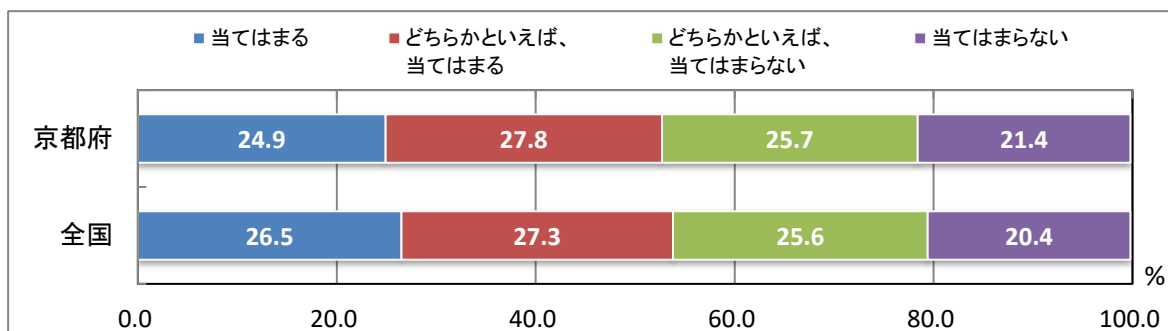


Q 算数[数学]の勉強は好きですか

小学校

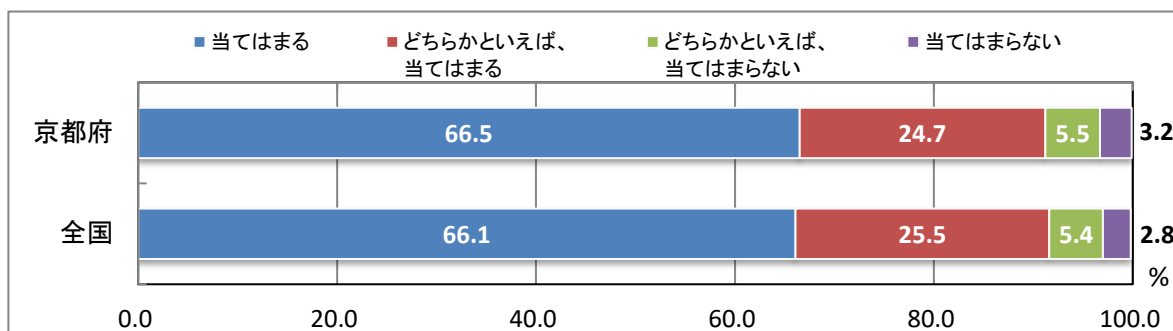


中学校

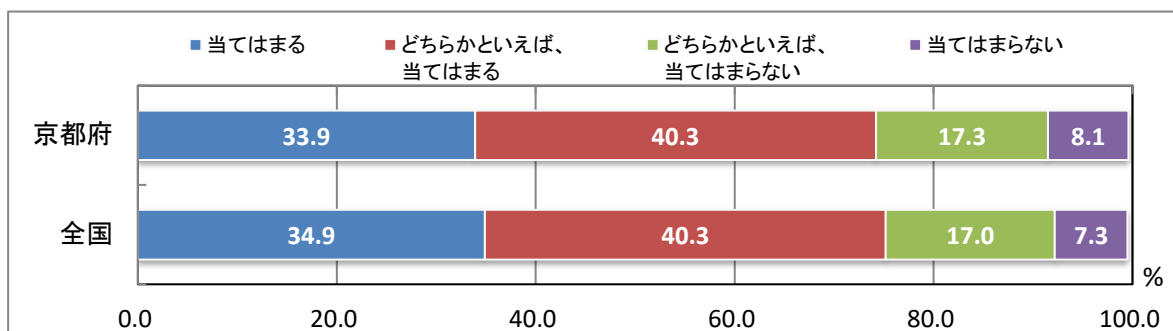


Q 算数[数学]の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

小学校

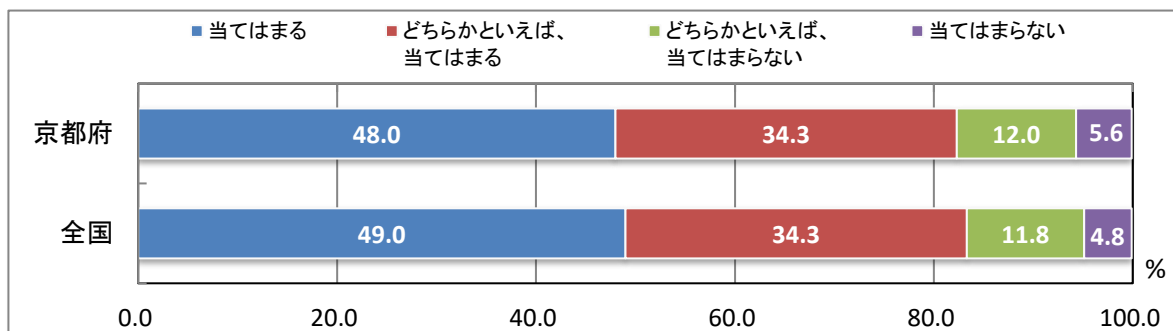


中学校

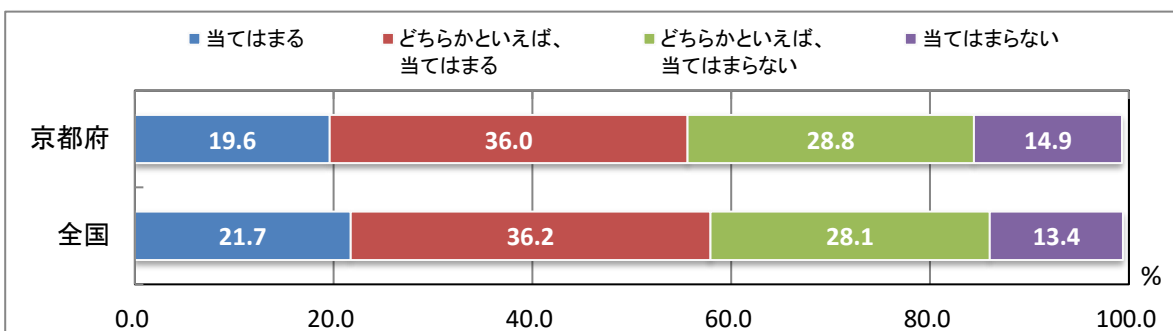


Q 数学の授業で活用したことを、普段の生活の中で活用できないか考える

小学校

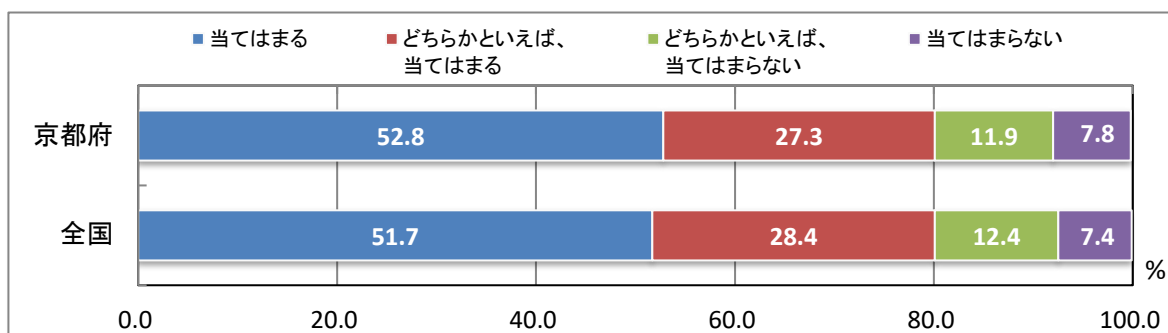


中学校

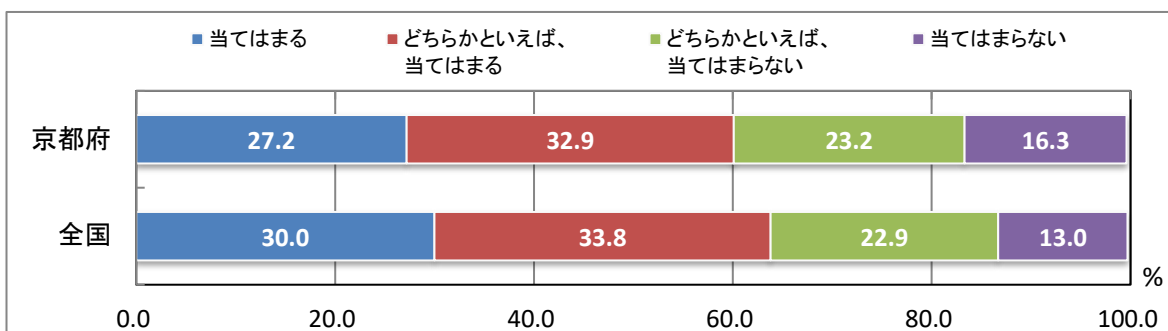


Q 理科の勉強は好きですか

小学校

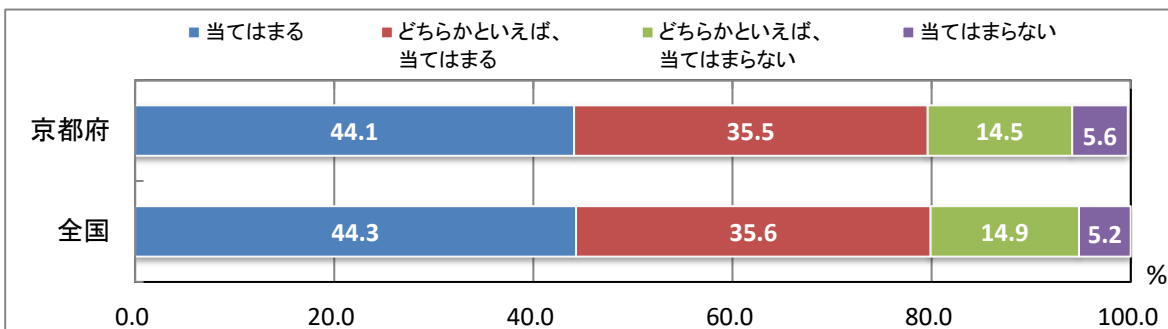


中学校

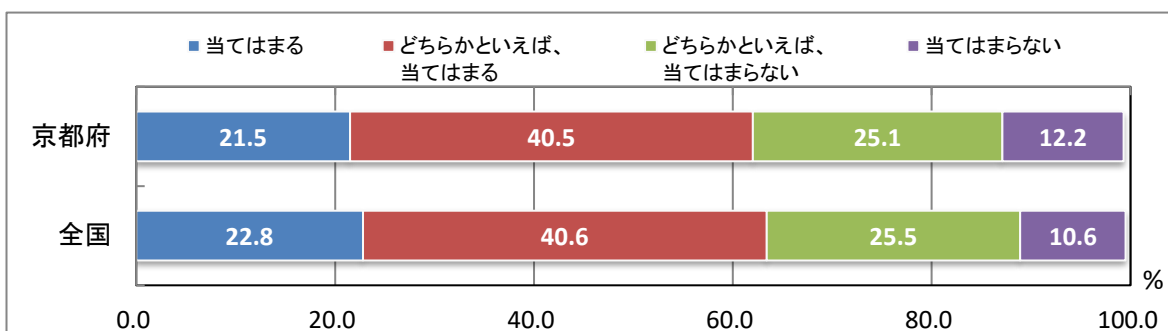


Q 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

小学校

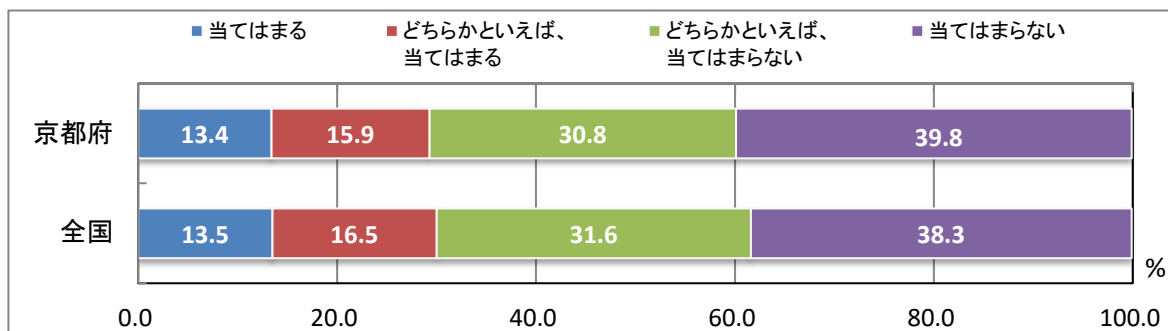


中学校

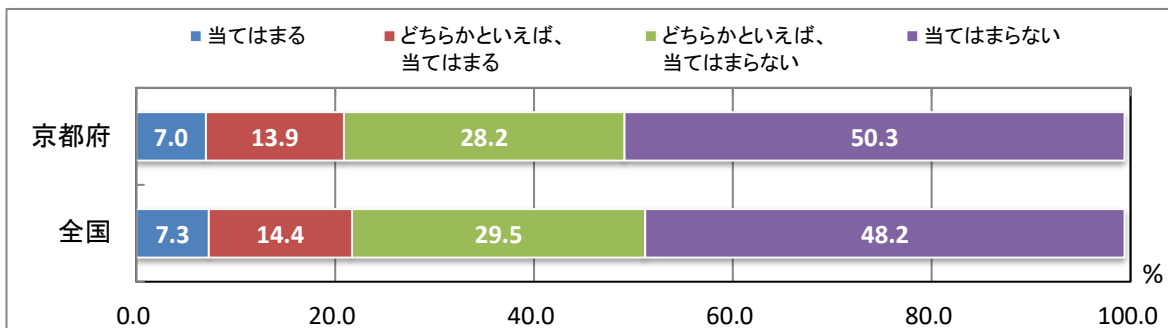


Q 将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか

小学校

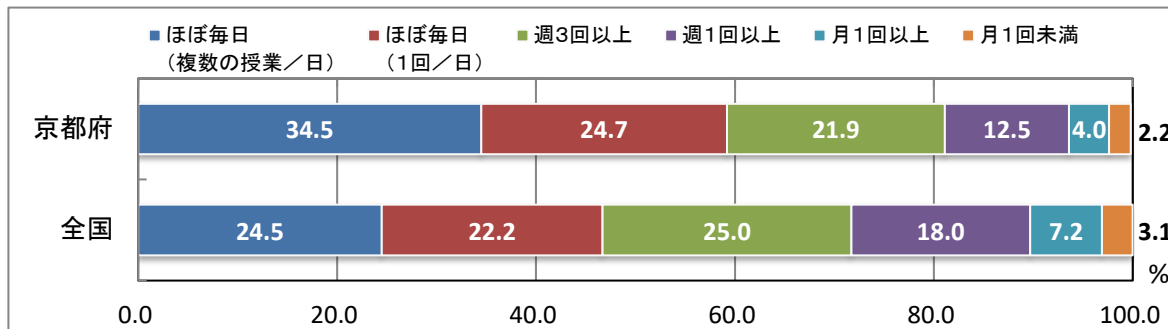


中学校

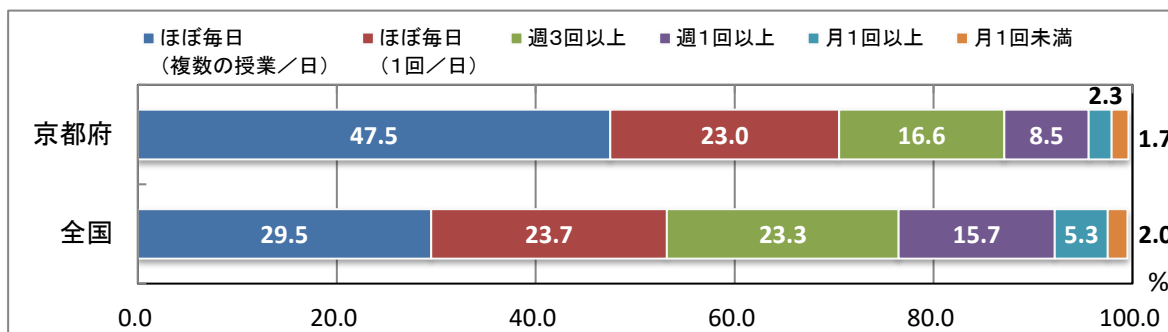


Q 5年生までに[1、2年生のときに]受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

小学校

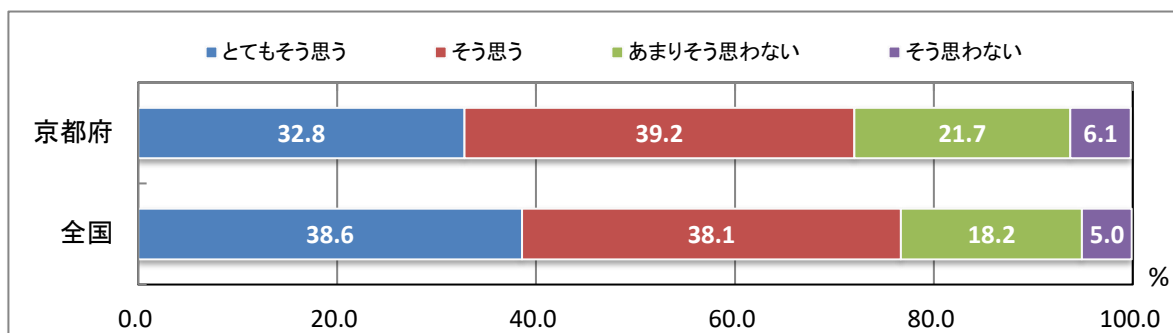


中学校

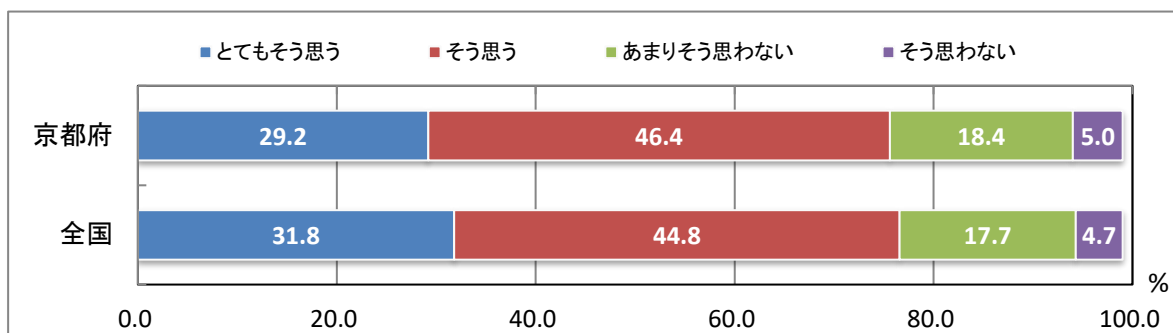


Q PC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか

小学校

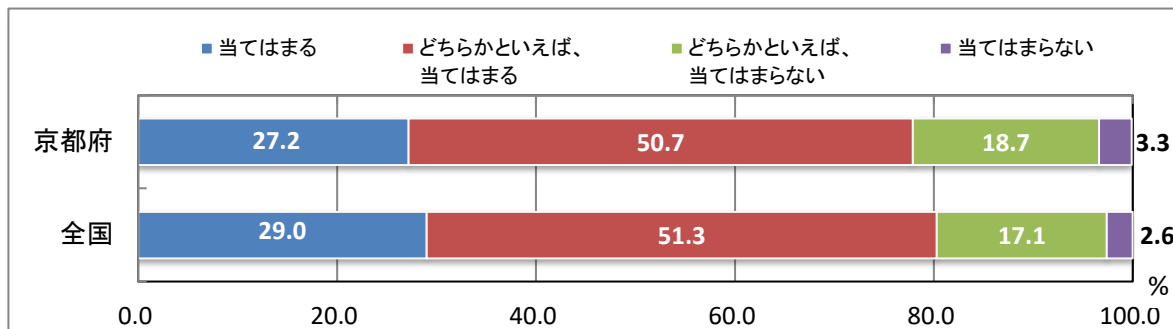


中学校

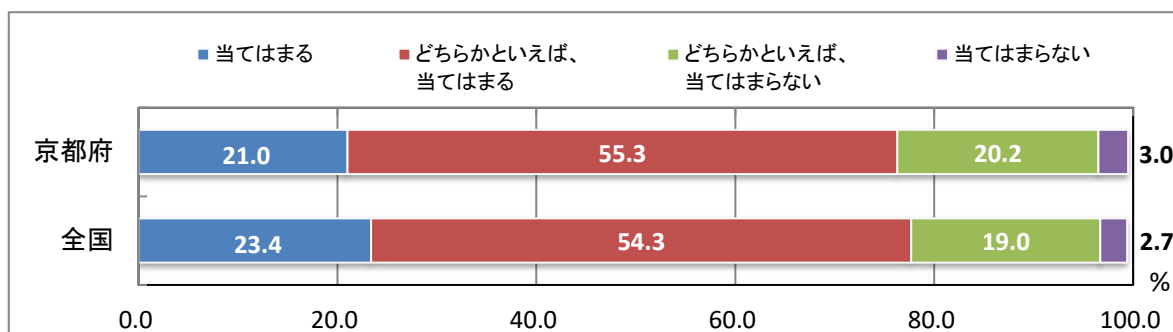


Q 5年生までに[1、2年生のときに]受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

小学校

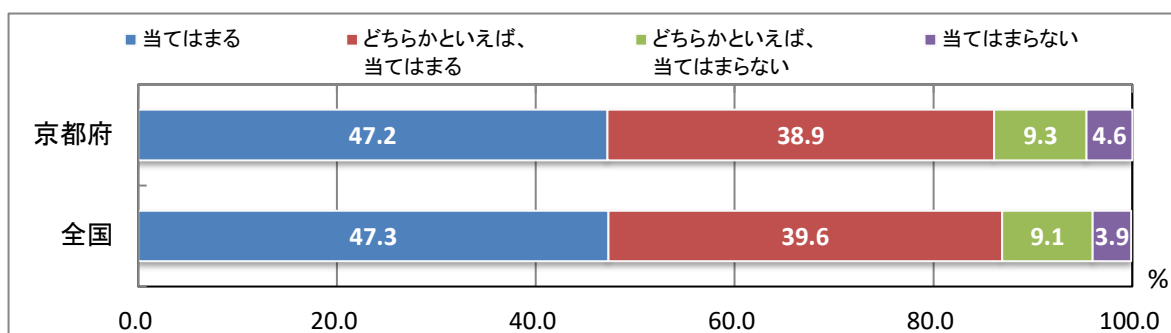


中学校

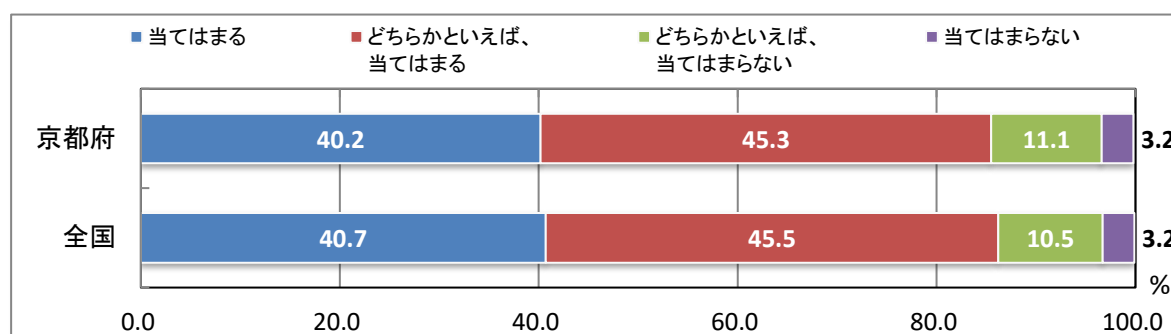


Q 自分には、よいところがあると思いますか

小学校

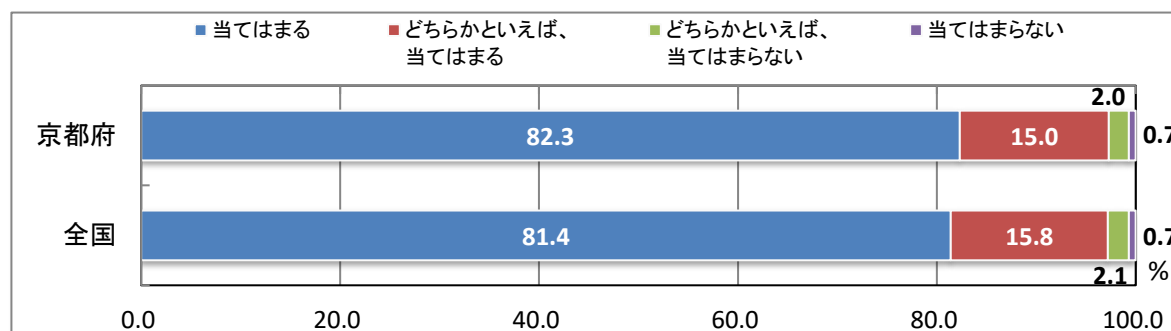


中学校

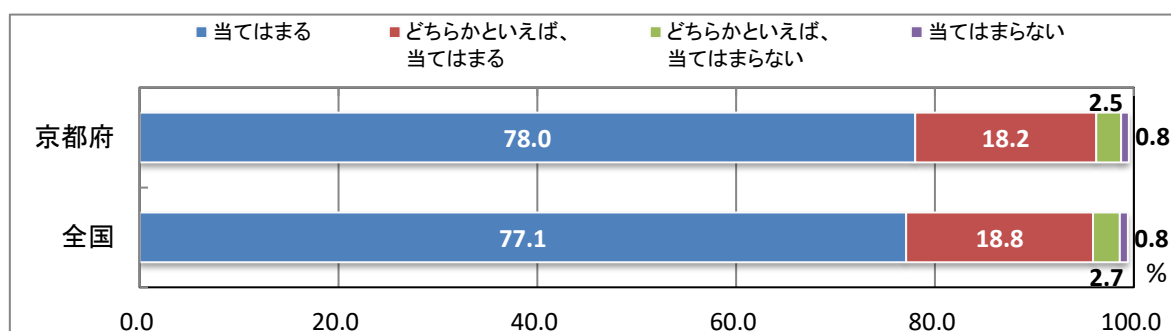


Q いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

小学校

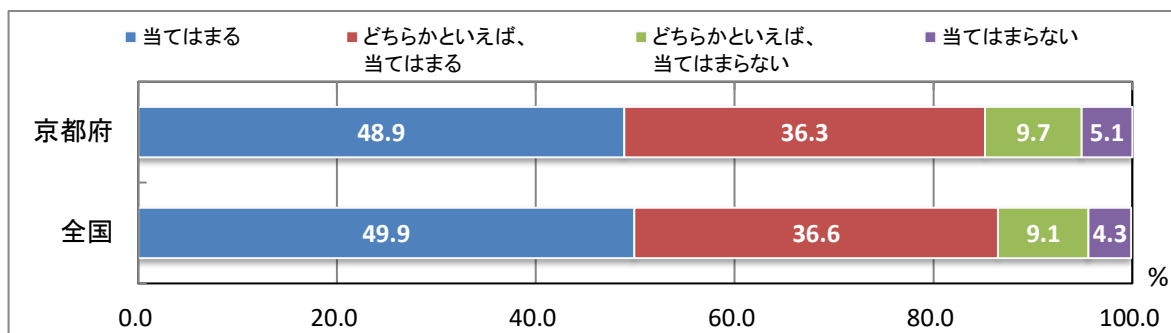


中学校

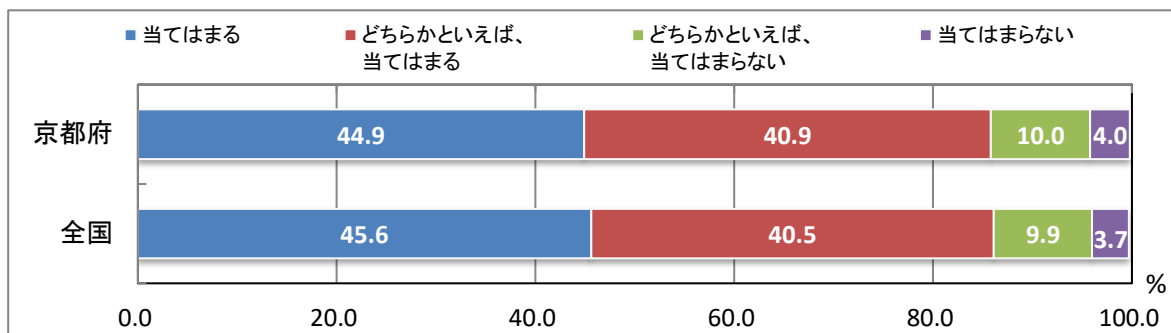


Q 学校に行くのは楽しいと思う

小学校



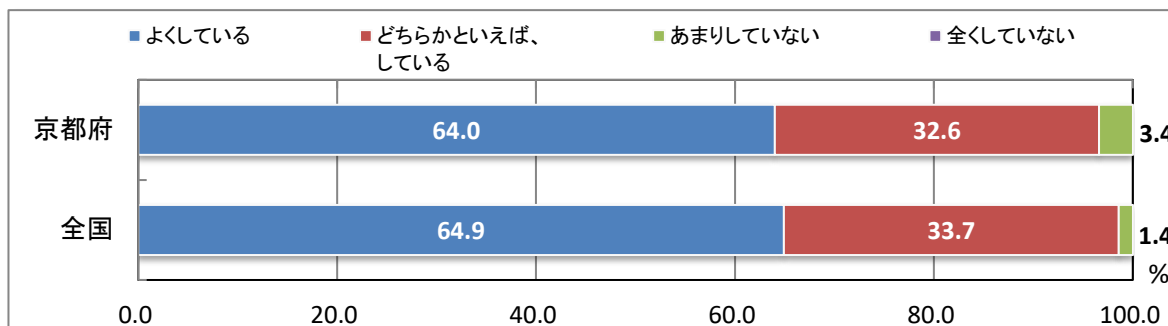
中学校



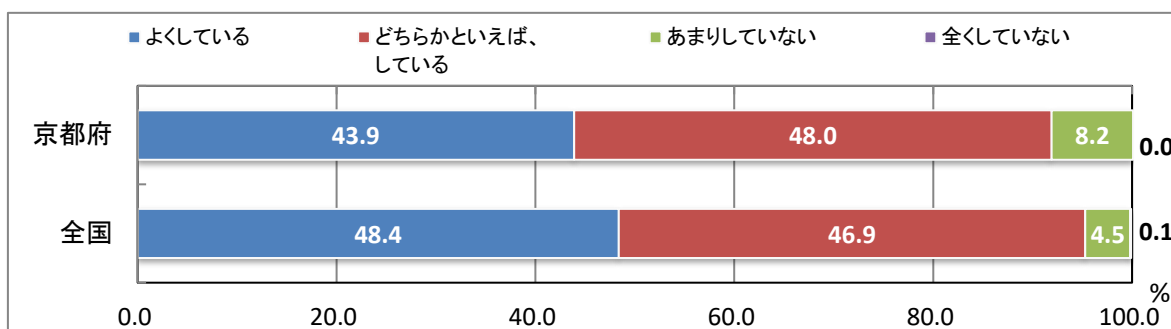
<学校に対する調査>

Q 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

小学校

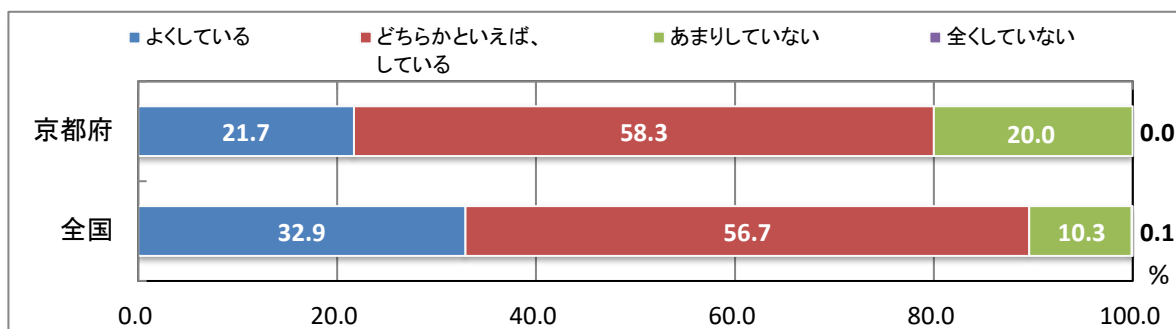


中学校

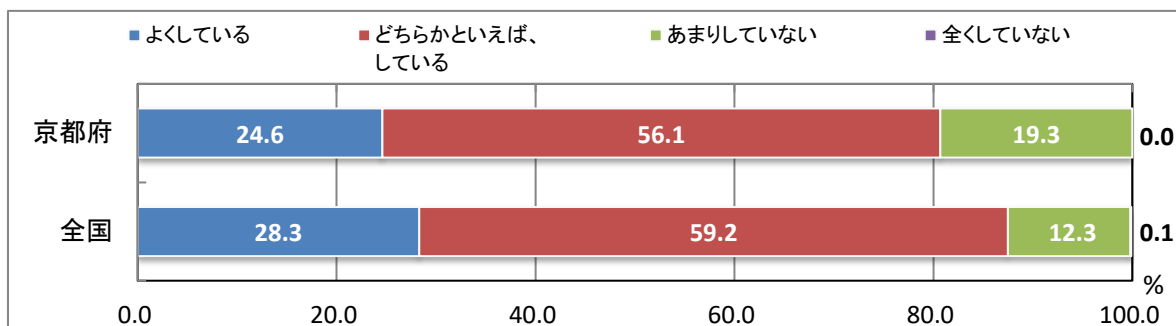


Q 個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)

小学校

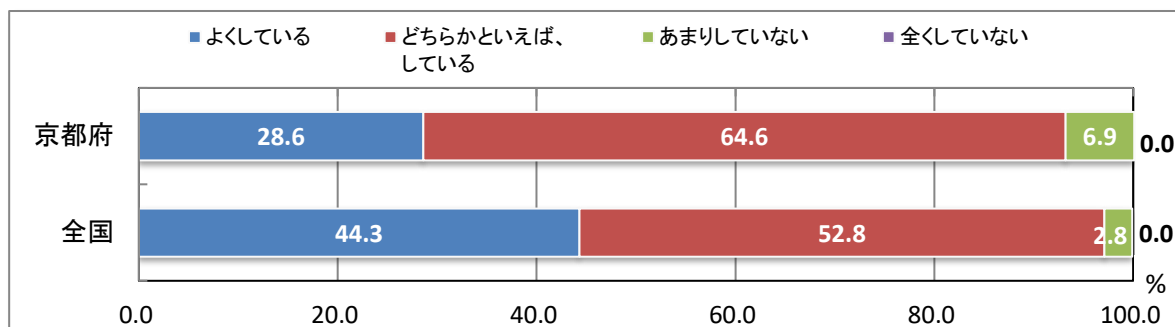


中学校

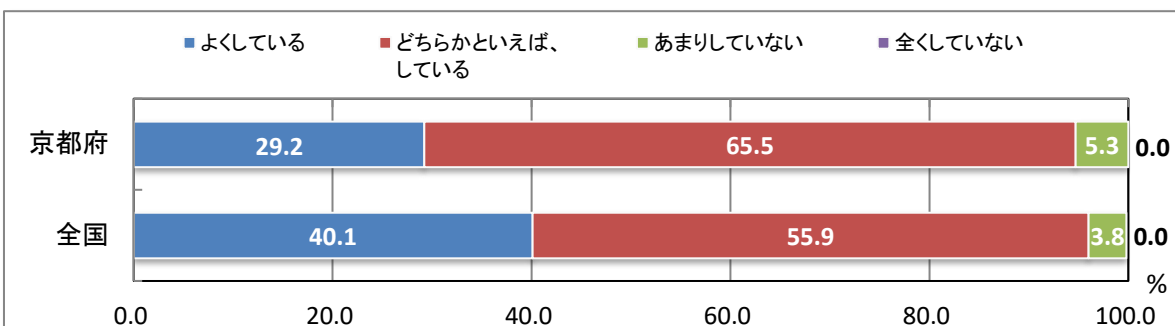


Q 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

小学校

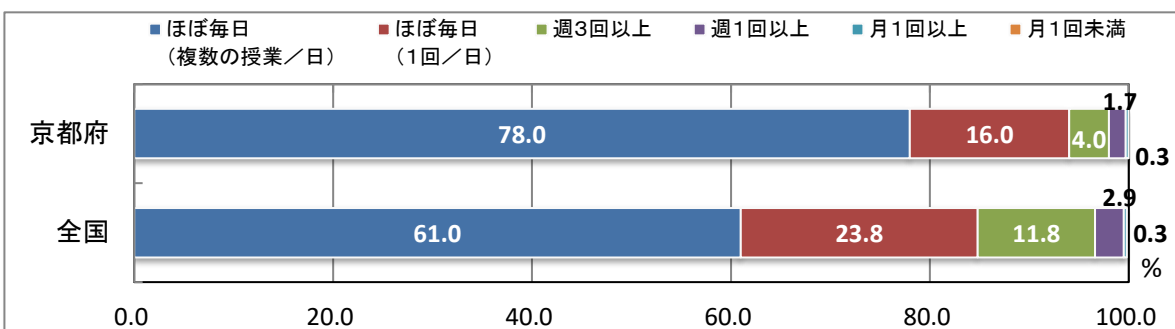


中学校

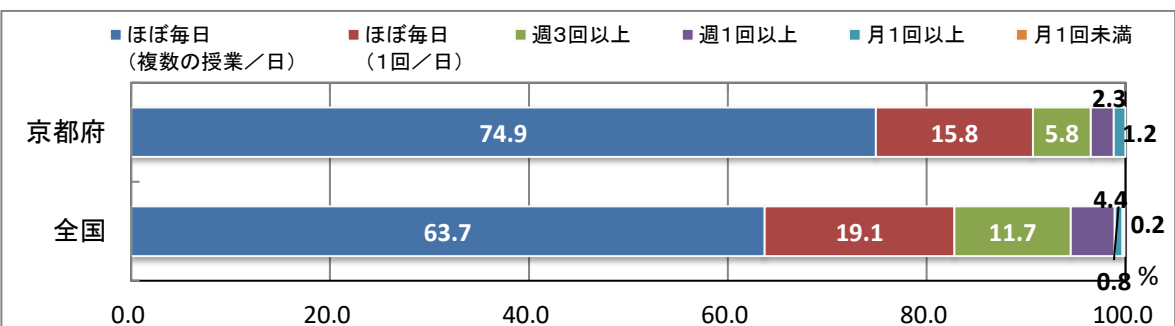


Q 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

小学校

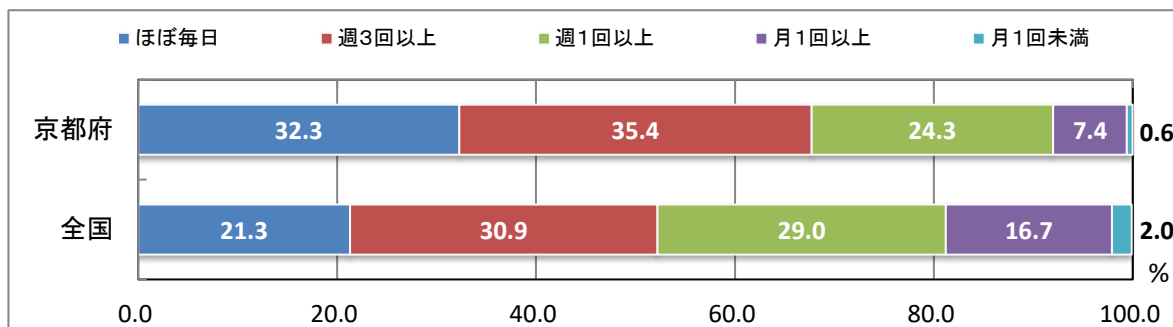


中学校

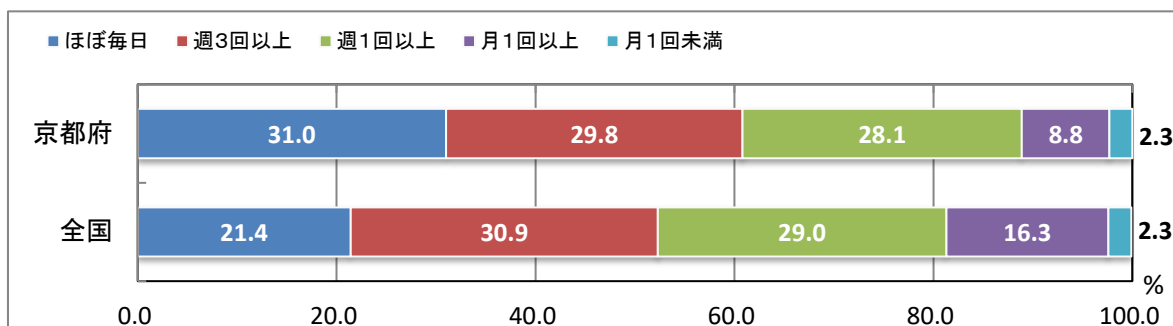


Q 調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

小学校

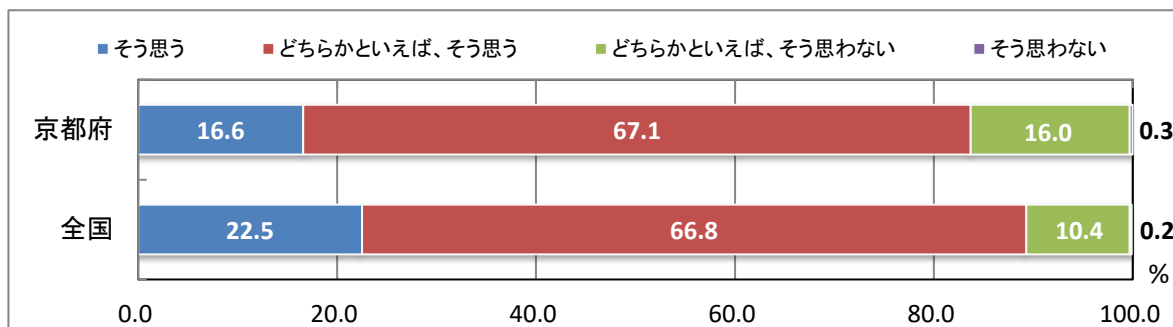


中学校

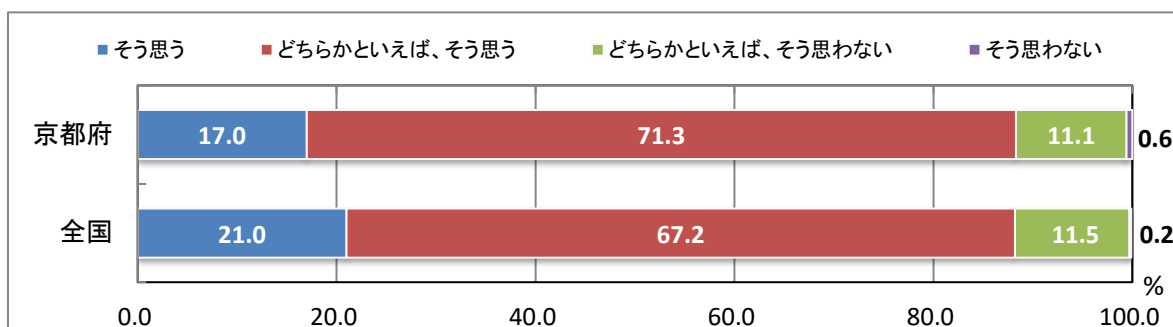


Q 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

小学校

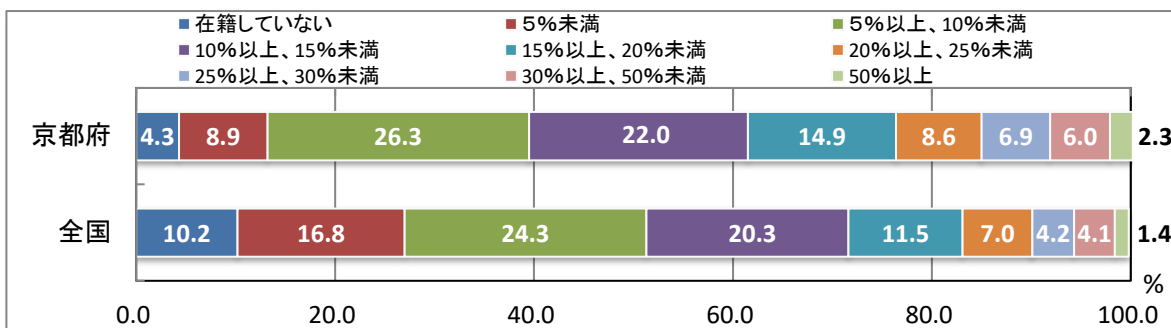


中学校

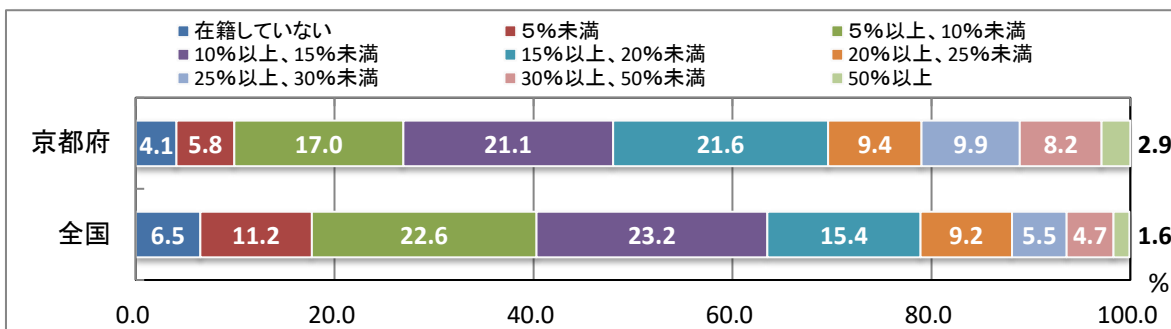


Q（調査対象学年の児童生徒について）就学援助を受けている児童生徒の割合は、どれくらいですか

小学校



中学校



V 教育局別の教科の調査結果の概要

1 教育局別の状況

(1) 平均正答率

- 府内各地域の状況を教育局別の平均正答率で示しています。
- 教育局別の平均正答率は、小学校、中学校ともに概ね全国平均に近い値ですが、教科毎にみると一部に課題が見られます。

小学校	国語	算数	理科
全国	66.8	58.0	57.1
京都府（京都市含む）	69	60	60
京都府（京都市除く）	67	59	58
乙訓局	71	64	62
山城局	67	59	58
南丹局	65	57	57
中丹局	67	56	57
丹後局	62	55	55

中学校	国語	数学
全国	54.3	48.3
京都府（京都市含む）	55	49
京都府（京都市除く）	54	48
乙訓局	57	52
山城局	53	46
南丹局	53	45
中丹局	54	48
丹後局	52	42

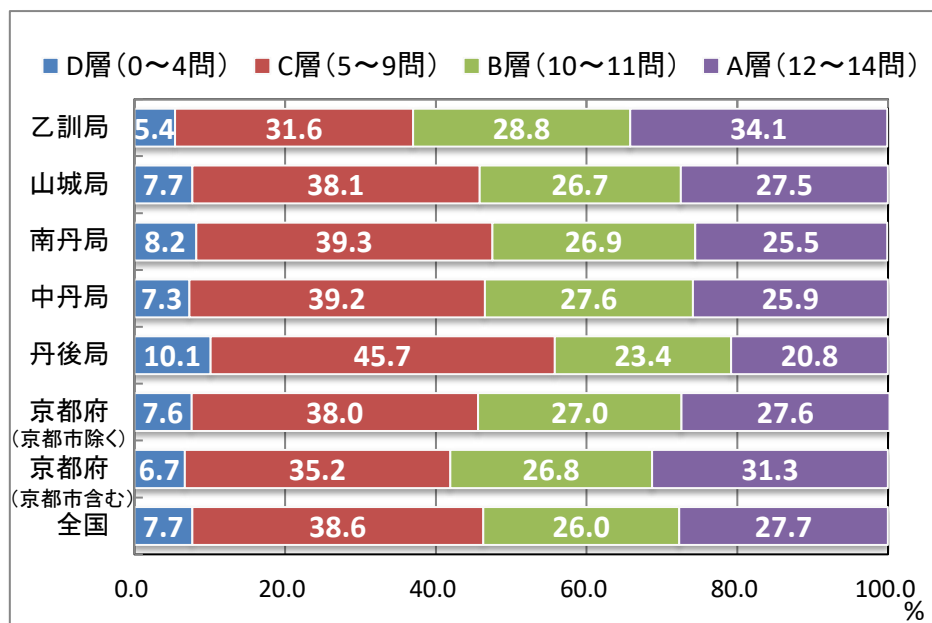
(2) 児童生徒の学力状況（正答数分布状況より）

- 次の正答数分布状況グラフは、児童生徒をその正答数によりA層からD層までの4群に分け、それぞれの人数の比率を示したものです。
- 各教科・各年度の平均正答数以上の児童生徒をA層（上位）、B層（中上位）、平均正答数未満の児童生徒をC層（中下位）、D層（下位）にそれぞれ二分割して分析します。

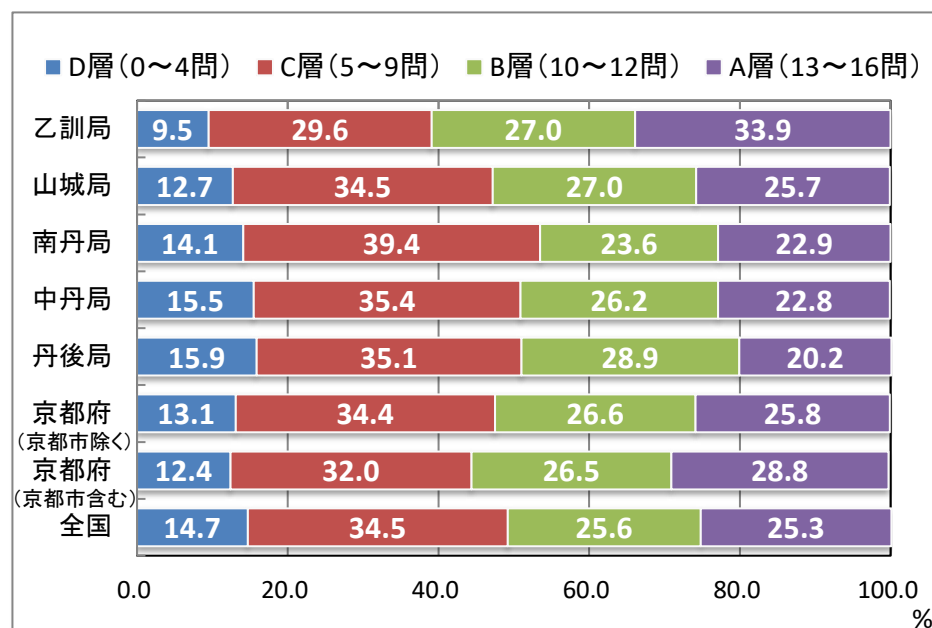
例えば小学校国語の出題数は14問あり、全国の平均正答数が9.4問です。したがって、0～4問がD層、5～9問がC層、10～11問がB層、12～14問がA層となります。

◆ 小学校第6学年正答数分布状況

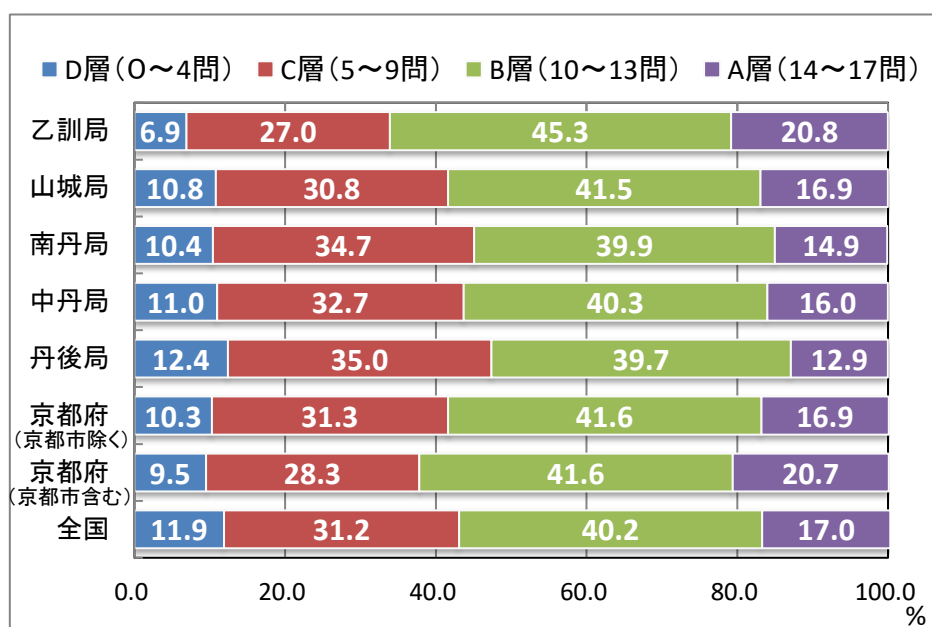
ア 国語



イ 算数

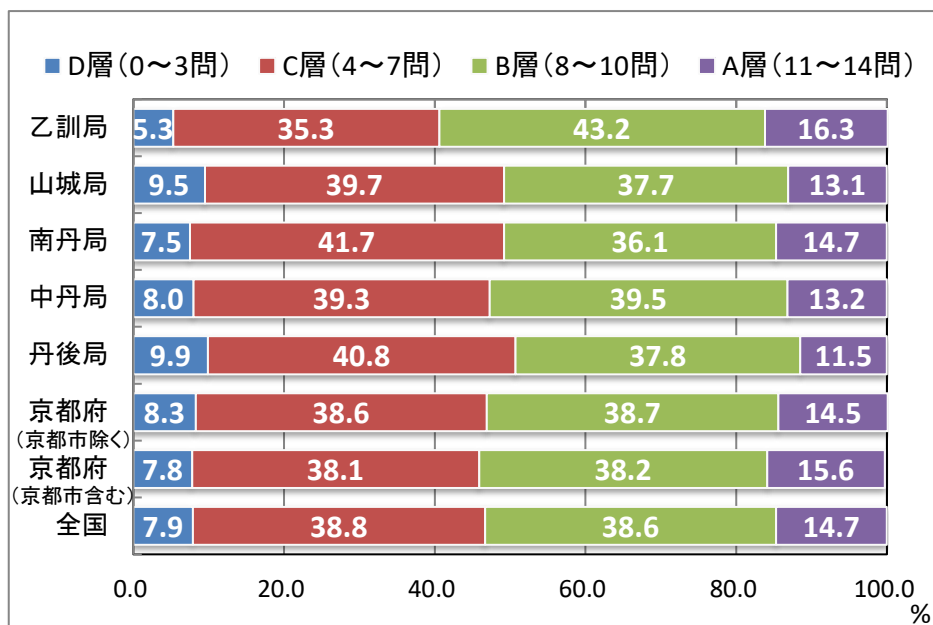


ウ 理科

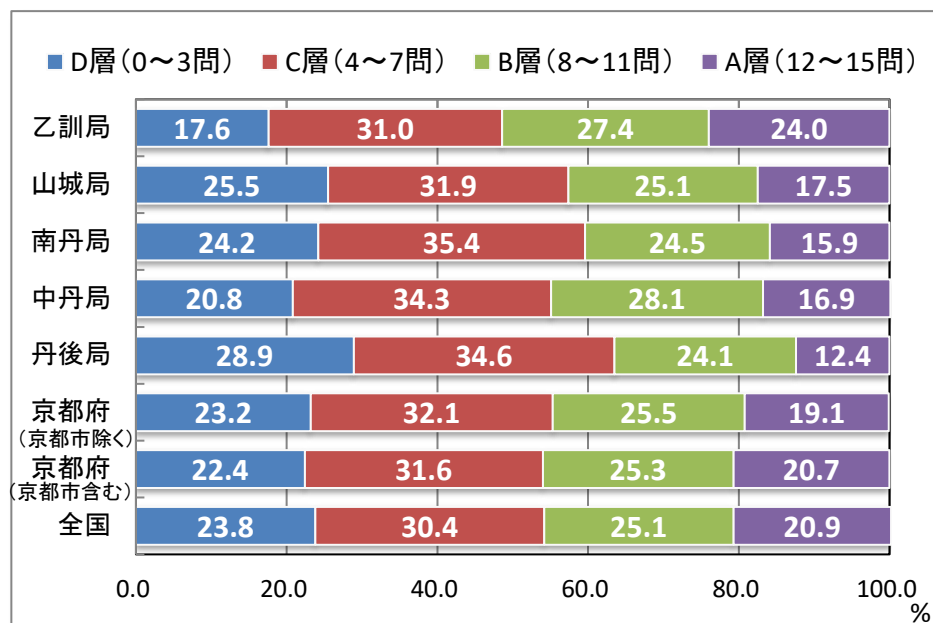


◆ 中学校第3学年正答数分布状況

ア 国語



イ 数学



ウ 理科

